



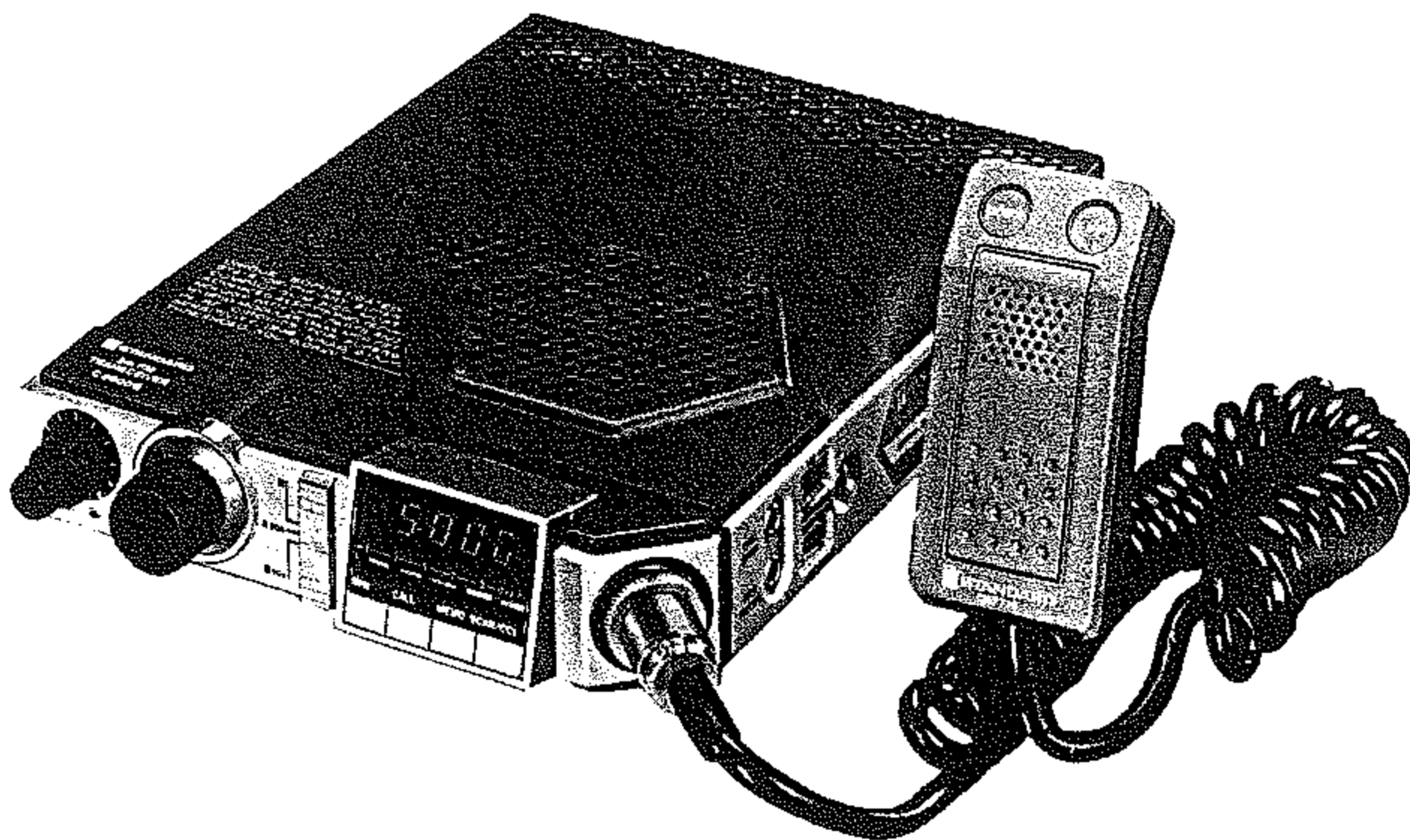
STANDARD.

C8900G

144MHz帯FM トランシーバー

超高感度 マイクロコンピュータ内蔵

取扱説明書



日本マランツ株式会社

このたびは、144MHz帯FMトランシーバーをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本機は、当社の厳重な品質管理及び検査のもとに生産、出荷されておりますが、万一ご不審な点、お気付きの点などがありましたら、なるべくお早めにお買い上げいただいた販売店あるいは弊社営業所、サービスセンターへお申し付けください。

本機の性能を十分に発揮し、末永くご愛用いただくためにご使用の前に、この取扱説明書を最後までよくお読みくださるようお願い致します。

付属品

1. 取扱説明書	1
2. 保証書	1
3. 営業所一覧表	1
4. 回路図	1
5. マイクロホン(CMP726)	1
6. モービルブラケット	1
7. DCコード(2 m)	1
8. 3.5φプラグ	1
(EXT.SPKRおよびEXT.METER用)	
9. ゴム脚	4
10. ブラケット止メビス関係	一式
{ 六角ボルト 5×20mm	
{ ナット 5mm	
{ 平ワッシャ 5mm	
{ スプリングワッシャー 5mm	
{ タッピングビス 5mm×15mm	
{ ワッシャー付黒ビス4×6mm	
{ (ブラケット2段重ね用)	

目次

特 長	2
お使いになる前に	3
各部の名称と動作説明	4
取付け方法	11
操作方法	15
便利な使い方	17
定 格	19
申請書の書き方	20
保証・アフターサービスについて	20
主なアクセサリ	21

特 長

●GaAsFET使用、高感度設計

RF回路に、ガリウム砒素FET 3SK97を採用。大型ヘリカルレゾネーターと組合せ、超低ノイズのRF AMPを実現させました。超小型機でありながら、大型機をしのぐ高感度、高選択度のすぐれた受信性を誇っています。

●安定した送信回路

ファイナルブロックにはパワーモジュールを採用。アンテナスイッチング回路には端子間容量の小さいピンダイオードを使いロスを少なくすると共に、長時間の連続送信でも安心して使用できるサーマルプロテクター回路を内蔵する等、最新技術を使っています。

●多機能マイコン搭載

本機にはシンプルでかつ実用性の高いマイコンが内蔵されています。

M4とM5のメモリーを利用した、プログラムスキャン等、シンプルなフィーリングの中にも、それなりにマイコンを使った操作を楽しむことのできるソフトが組込まれています。

★5チャンネルメモリー

5つの周波数をメモリーすることができ、又、任意のメモリーを空にすることもできます。メモリースキャンも楽しめます。

★色々楽しめるオールスキャン

本機のスキャンは次の3つの機能をもっています。

①現在表示中のMHz内をスキャンします。

(1MHz内スキャン)

②希望する周波数の間をスキャンします。

(プログラムスキャン)

③2MHzの全周波数をスキャンします。

(全周波数スキャン)

★1MHzずつフイックに周波数をアップできるMHzキー内蔵

★便利なCALL

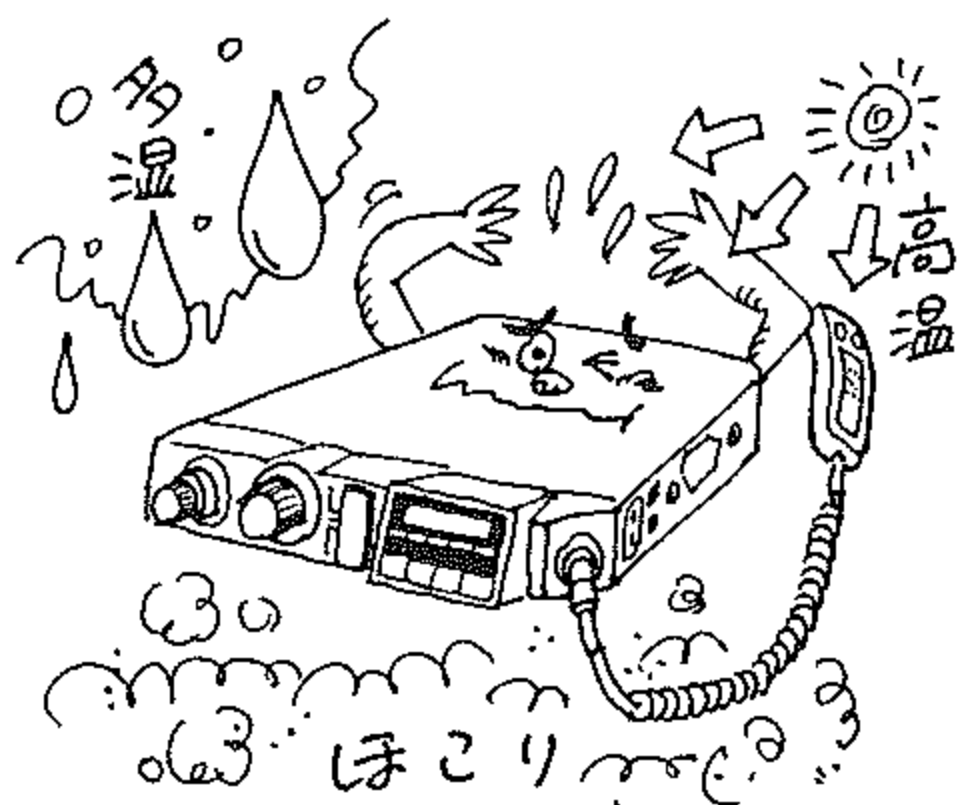
145.00 MHzと145.50 MHzが優先的に呼びだされます。

お使いになる前に

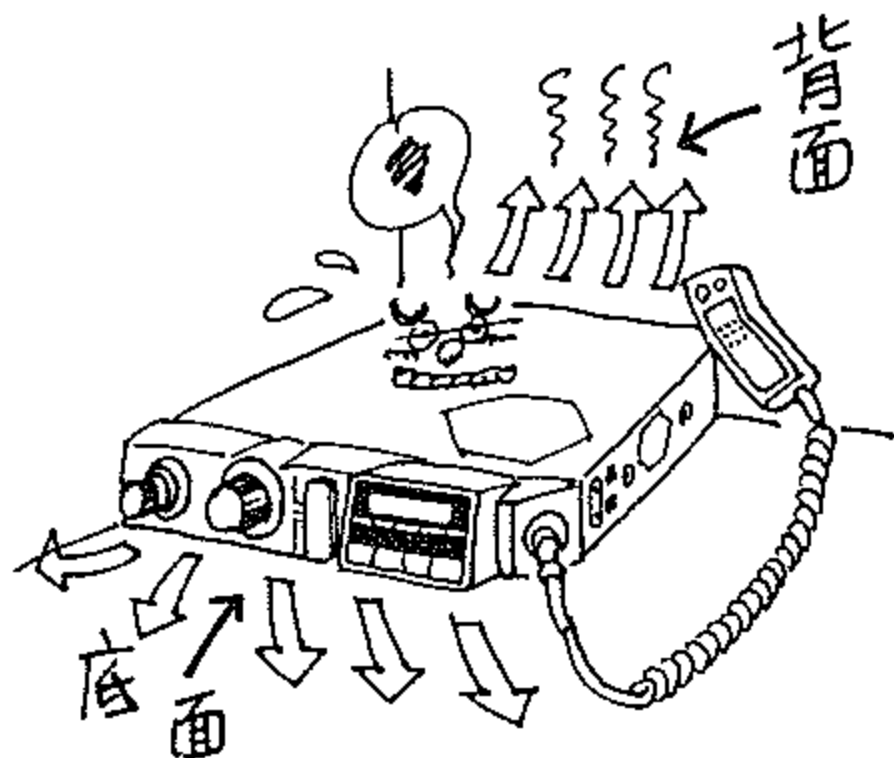
設置場所

本機の設置場所として次の点に留意してください。

- ①高温、多湿、ほこりの多い場所、特に日光が直接当たる場所は避け、風通しのよい乾燥した場所に設置してください。

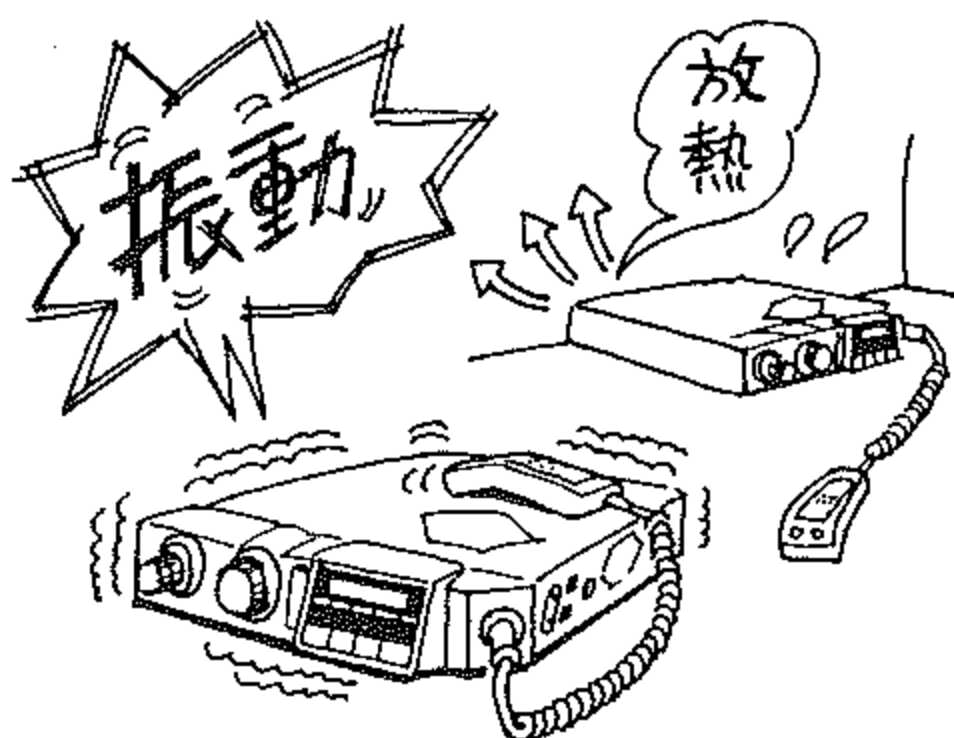


- ②ヒートシンクの冷却効果を妨げないよう、背面及び底面には十分スペースをとってください。



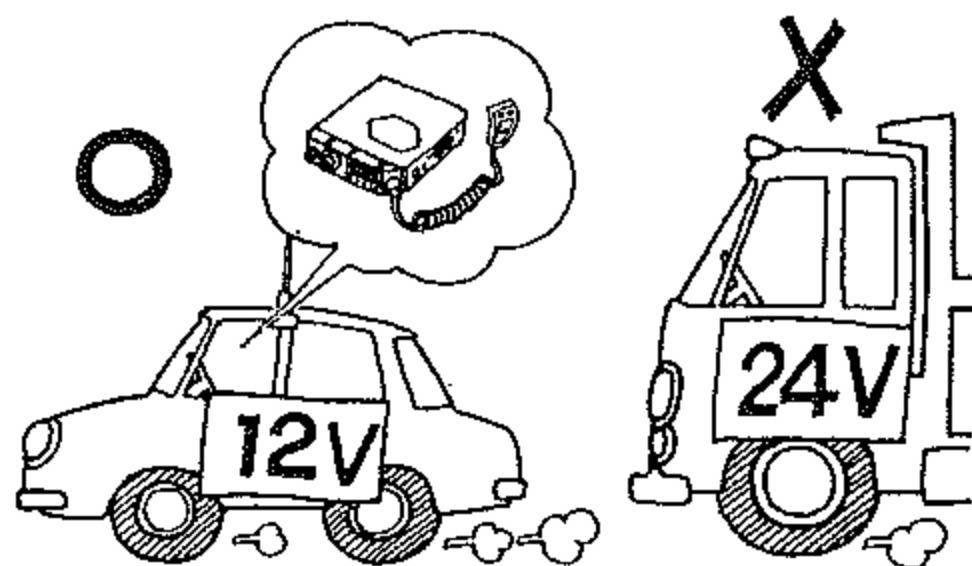
- ③車に取付ける際には、本機の背面が直接シートにふれないようにするなど放熱には十分配慮してください。

また、なるべく振動を直接受けない場所や状態での運用を心がけてください。



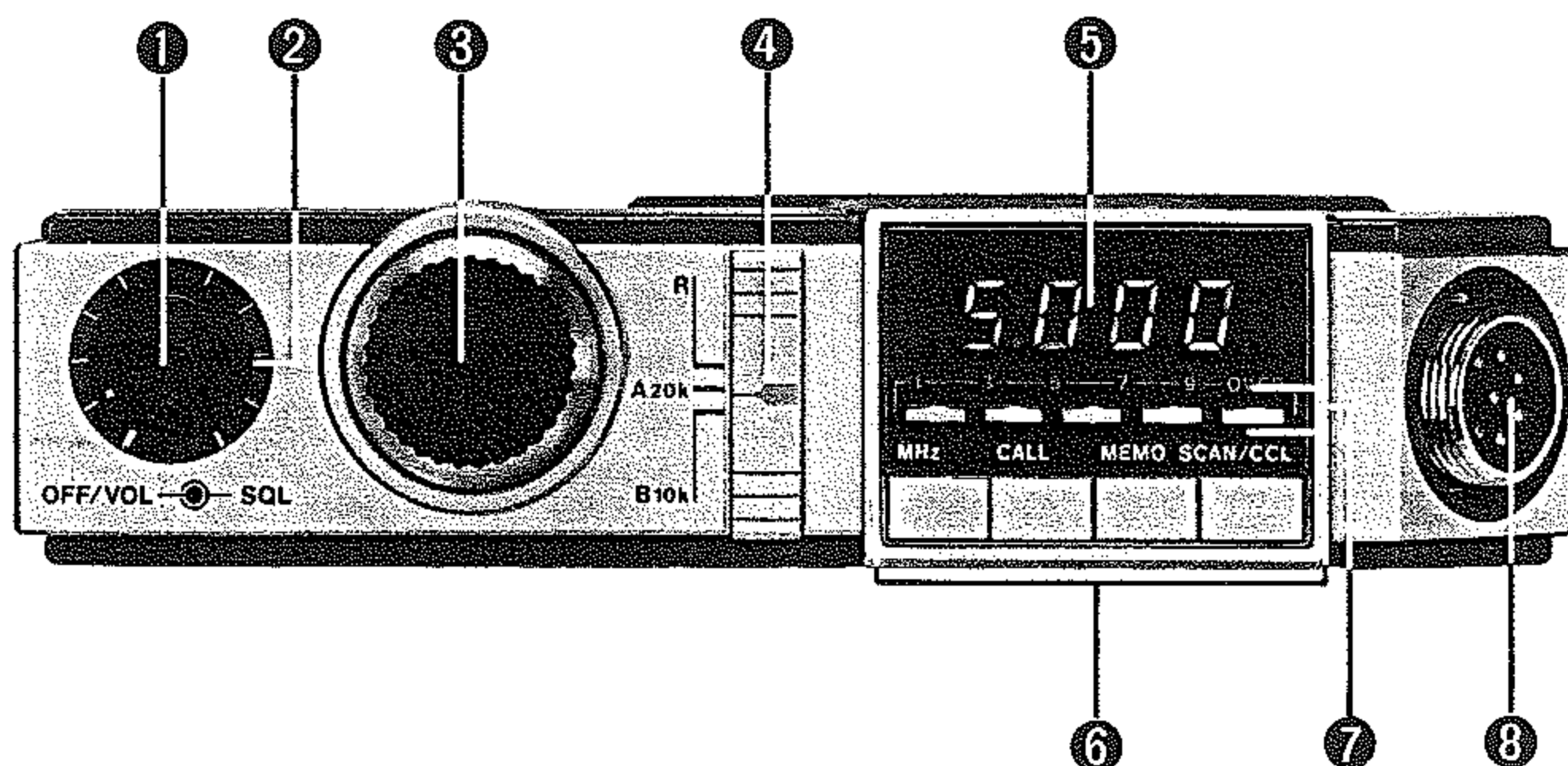
電源について

- ①本機はDC12.0V仕様専用です。大型車など24Vバッテリーには使用できませんのでご注意ください。



- ②AC100Vから使用する場合は、別売のパワーサプライCPS03に接続してお使いください。

各部の名称と動作説明



① OFF/VOL

(電源スイッチ/音量調節つまみ)

つまみを時計方向(↻)に回すと、カチッと音がし、電源がONになります。

さらに回すにしたがって音量が大きくなります。つまみを反時計方向(↺)へ回すと音量が小さくなり、カチッと音がするまで回し切ると電源はOFFになります。

② SQL(スケルチ・つまみ)

FM特有のザーという雑音を消すつまみです。入力信号がないときに反時計方向(↺)に回し切っておくとザーという雑音が聞えますので、時計方向(↻)にゆっくり回して雑音が聞えない位置に合わせてご使用ください。

入力信号が加わってきたときだけスピーカより音声が入ります。

このSQLつまみを右に回しすぎますと、弱い入力信号で音声は聞えなくなることがありますので右に回しすぎないように注意してください。スキャン動作を行うときには、ザーという雑音が聞えない位置にしておいてください。

③ メインダイヤル

送信および受信周波数を変化させるダイヤルです。このダイヤルを時計方向(↻)に回すと周波数は高くなり、反時計方向(↺)に回すと周波数は低くなります。

1ステップで変化する周波数は10KHz又は20KHzです。

④ VFOスイッチ

VFO回路の動作を切替えるスイッチです。

- A-VFOの位置では、チャンネルステップは、20kHz となり、送信および受信が同一周波数になります。
- B-VFOの位置では、チャンネルステップは、10kHz となり、送信および受信が同一周波数になります。
- R-VFOの位置では、チャンネルステップが、10kHzとなり、送信周波数は、B-VFOの位置で選んだ周波数となり、受信周波数は、R-VFOの位置で選んだ周波数となります。

⑤ 周波数表示LED

1. 周波数表示(数字4桁)、メモリー(ドットの点滅、点灯)スキャン(ドットの点滅)の各動作を表示します。

145.000MHzを受信しているときは、5.000と下4桁を表示します。

CALLボタンを押すと4桁目に“c”が表示されCALL中であることを示します。

2. スキャンモード中はMHz台表示右側のドットが点滅します。

5.000
↑ 点滅

3. MEMOキー操作中は10kHz台表示右側のドットが点滅又は点灯します。

5.00.0
↑ 点滅又は点灯

4. メモリー・スキャン動作中はMHz台表示右側のドットが点滅し、10kHz台表示右側のドットが点灯します。

5.00.0
↑ 点滅 ↑ 点灯

⑥ キーボード

4つのキーは、MHz、CALL、MEMO、SCAN/CCLの各動作を指令します。

① MHz

144MHz帯と145MHz帯を切換えるスイッチです。このキーを押しますと、144MHzから145MHz又は145MHzから144MHzへワンタッチで切換えられます。

② CALL(コール)

145.000MHzと145.500MHzを優先して呼び出すキーです。

1度押すと145.000MHz、もう1度押すと145.500MHzが呼び出せます。さらにもう1

度押すと元の145.000MHzに戻ります。

優先的に2つの周波数を呼び出すことができるので大変便利です。

③ MEMO(メモ)

メモリーチャンネルの呼び出し(RCL)と、希望周波数をメモリーさせる(ENTER)両方の機能をもったキーです。

記憶回路は、M₁~M₅までの5チャンネルの記憶能力があります。

10kHz台右側のドットが点灯しているときは、キー操作で次のメモリーチャンネルを呼びだします。

点滅しているときは、キー操作で現在表示している周波数をメモリーします。

このキーを使用中は、ドットが点滅(呼び出し)、点灯(書き込み完了)します。

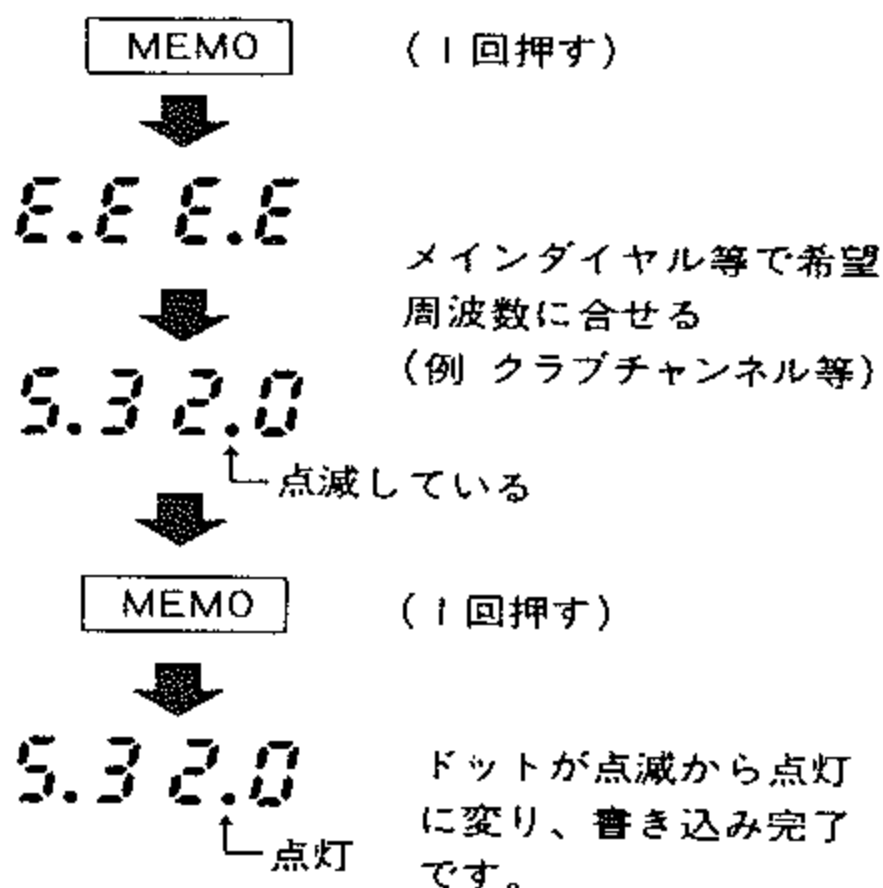
A-VFO、B-VFOおよびR-VFOの各ポジションでMEMORYの書き込み、呼び出しができます。

- 周波数を記憶させる方法は次の手順で行ってください

M1に記憶

OFF/VOLツマミを時計方向に回して電源をONにします。(5.000が表示されます)

例 145.320MHzを記憶する場合

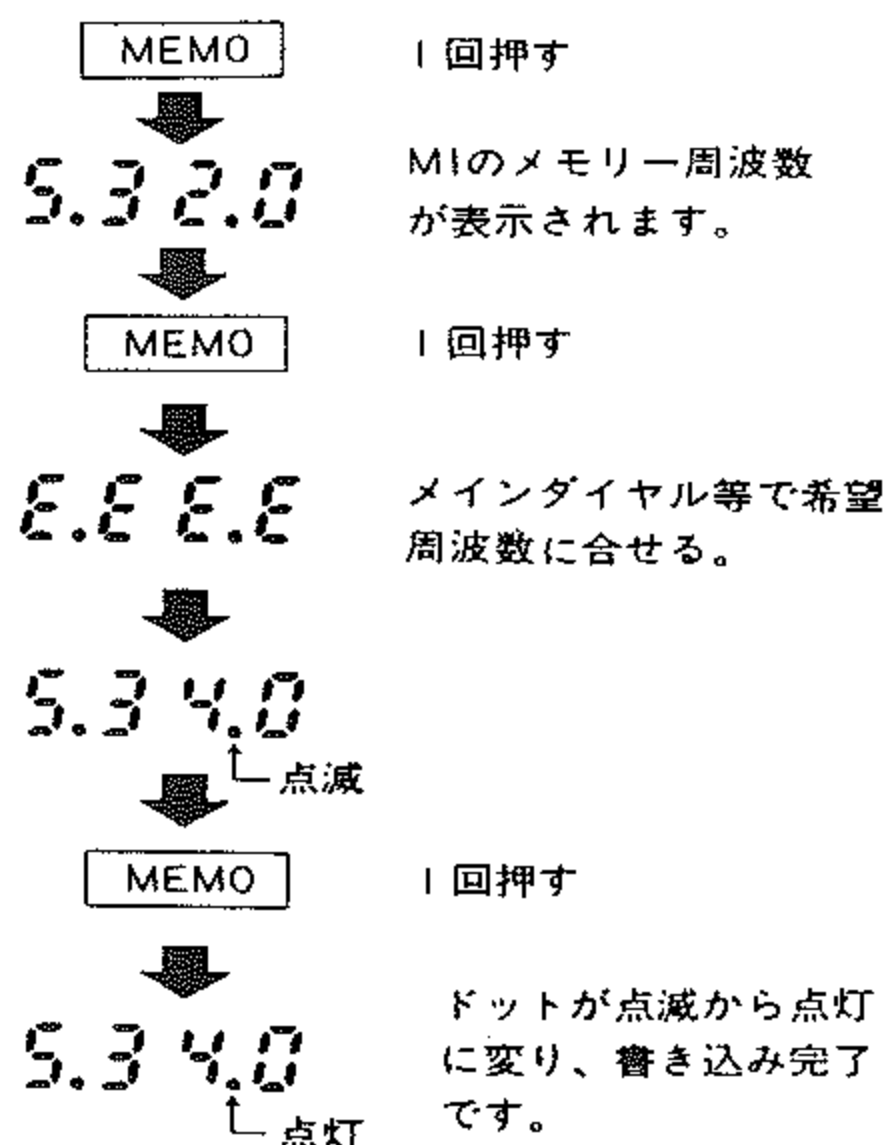


メモリー完了後は必ずSCAN/CCLキーを押してください。

M2に記憶

続いてM2にメモリーするときは、2回続けてこのキーを押してください。M2が呼び出されます。

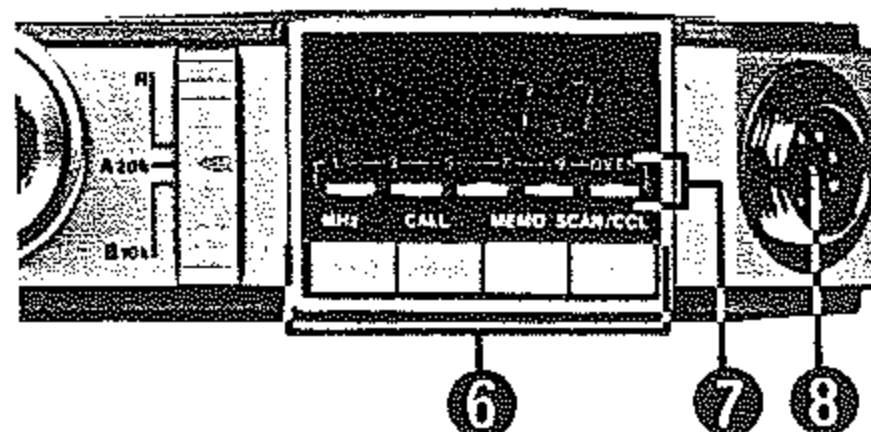
例 145.340MHzを記憶する場合



メモリー完了後は必ずSCAN/CCLキーを押してください。

M3～M5に記憶

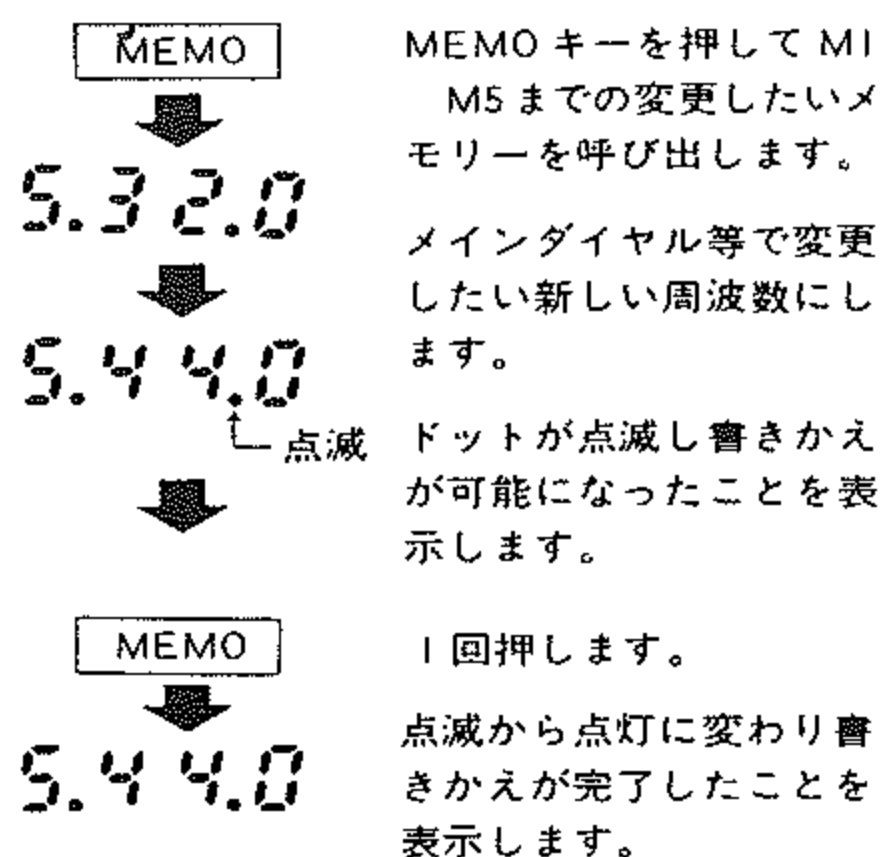
同様にしてM3～M5まで順次行ってください。



- 書き込まれているメモリー周波数を変更するとき。

呼び出したメモリー周波数を、変更したい新しい周波数にメインダイヤル等を使用して変更し、もう1度MEMOキーを押すと書きかえができます。

例 145.320MHzを145.440MHzに変更する場合

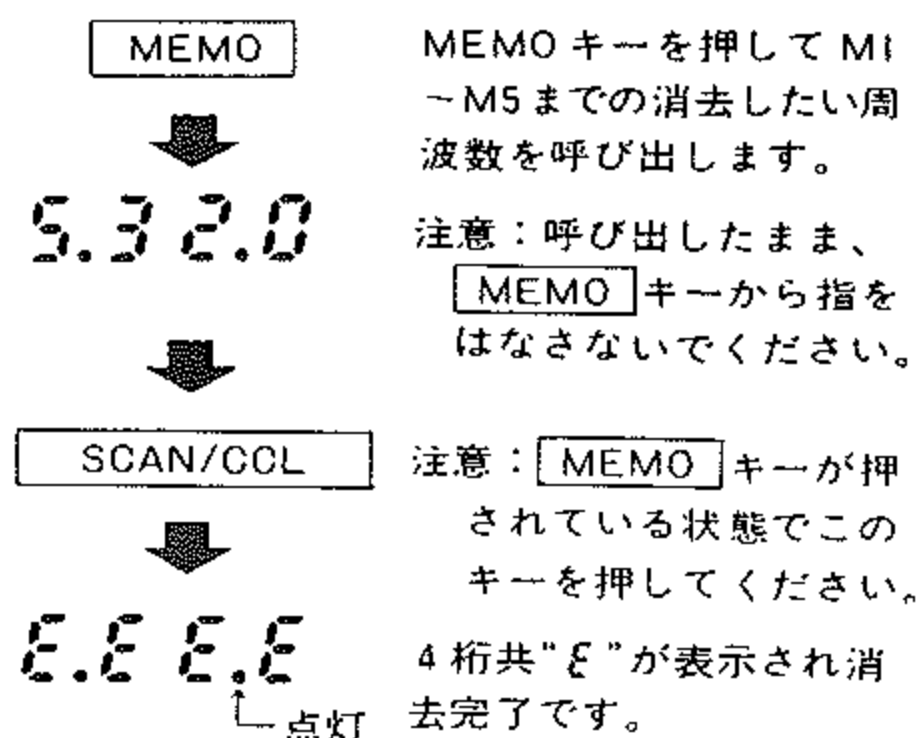


変更完了後は必ずSCAN/CCLキーを押してください。

- 書き込まれているメモリー周波数を消去するとき

消去したいメモリー周波数を呼び出しMEMOキーとSCAN/CCLキーを同時に押してください。

例 メモリー周波数を消去する場合



消去完了後は必ず **SCAN/CCL** キーを押してください。

④ **SCAN/CCL** (スキャン/キャンセル)

このキーは、下記のような2つの機能を持っています。

1. 各動作をキャンセルする。
2. スキャン動作を開始又は停止する。

スキャン動作中に、信号が入感すると、スキャン動作は停止し、信号が無くなると再スタートします。(BUSYスキャン方式)

スキャン停止中に再度スキャン動作をさせたい場合は、マイクロホンのUPスイッチを押してください。10kHzまたは20kHz ステップでスキャンしはじめます。

スキャン動作中に、**SCAN/CCL** キーを押しますとスキャン動作が解除されます。

スキャン動作は、全帯域、1MHz、プログラムスキャンの3種類があります。

スキャン中は **5.300** のドットが点滅します。

点滅

● メモリー周波数をスキャンするとき

メモリースキャンのときは **SCAN/CCL** キーでスキャン状態とし、次に **MEMO** キーを押してください。M1→M2→M3→M4→M5の順でメモリー内をスキャンします。又、メモリー内容が空の所はスキップしてスキャンします。

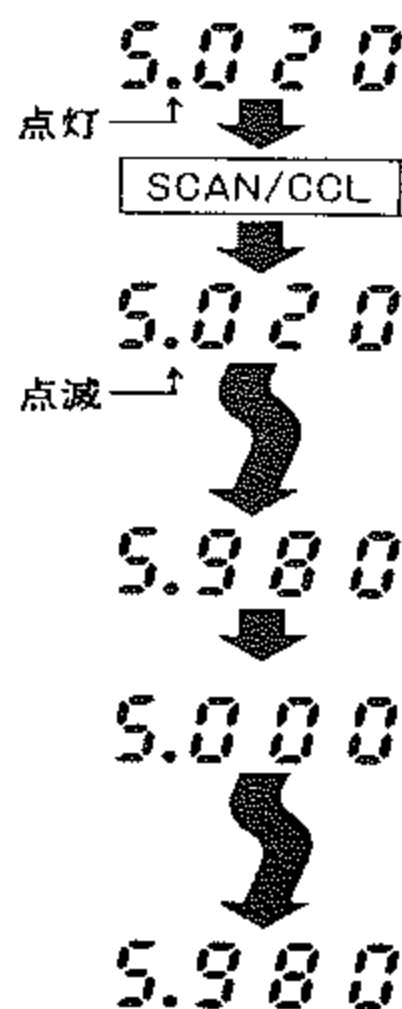
● 全帯域スキャン

4番目のメモリーに周波数がメモリーされていて、かつ5番目のメモリーに周波数がメモリーされていないときに全帯域スキャンを行います。

M1～M3までのメモリー状態には関係ありません。

● 1MHzスキャン

4番目のメモリーに周波数がメモリーされていないときのみ表示されている周波数の1MHz内をスキャンします。又1MHzスキャン中、MHzキーでMHz台の移動ができます。

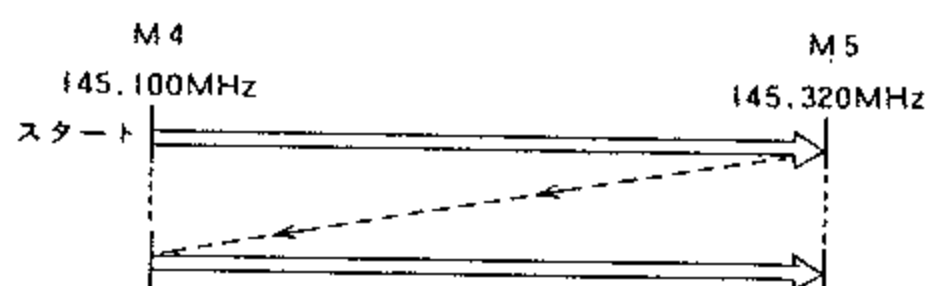


をくり返します。

● プログラムスキャン

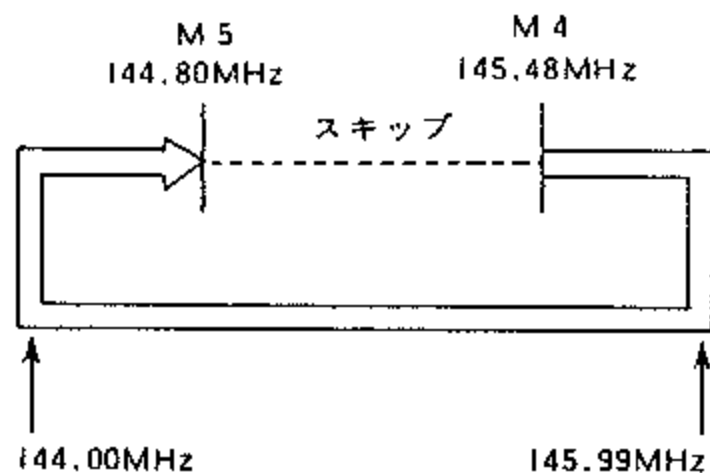
M4、M5に周波数がメモリーされているときに、4番目のメモリー周波数から周波数が高くなる方向に5番目のメモリー周波数までスキャンします。

M4に145.100MHz、M5に145.320MHzがメモリーされているときは



注意：このプログラムスキャンは、必ずM4のメモリー周波数よりスキャンがスタートしますので、M5のメモリー周波数がM4のメモリー周波数より低いときは下図のようにスキャンします。

M4に145.480MHz、M5に144.800MHzがメモリーされているとき。



- M4およびM5にメモリーされた周波数が偶数の場合のスキャン動作は次のようになります。

例 M4 = 145.020

M5 = 145.980

VFO切替スイッチがB又は、Rの位置の時

145.020から145.030と10kHzステップでスキャンします。

VFO切替スイッチがAの位置の時

145.020から145.040と20kHzステップでスキャンします。

- M4およびM5にメモリーされた周波数が奇数の場合のスキャン動作は次のようになります。

例 M4 = 145.010 MHz

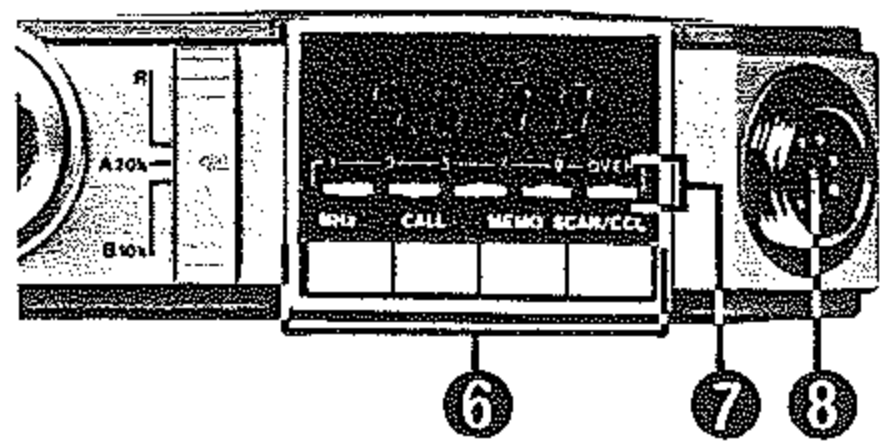
M5 = 145.990 MHz

VFO切替スイッチがB又はRの位置の時

145.010から145.020MHzと10kHzステップでスキャンします。

VFO切替スイッチがAの位置の時

145.020MHzから145.040MHzと20kHzステップでスキャンします。



⑦メーター

緑色3ケと赤色2ケ計5ケのLEDで入力信号強度“S”(BUSY表示含む)と送信出力“RF”を表示します。

Sメーター

“S”メーターとしての動作は入力信号の強弱によりLEDが左側より右側に向って点灯していきます。但し、一番左側の緑のLEDは、BUSY表示としての動作も兼ねています。SQLボリュームを反時計方向に回し切っておくとノイズだけでこのLEDが点灯します。ノイズが聞こえなくなる位置（スレッショポイント）にSQLボリュームを調整しておくと、このLEDは消えますが、微弱電波等（ノイズ状態のものを含む）を受信し、SQLが開くとこのLEDは点灯します。又タイトスケルチ(SQLボリュームを時計方向に回し切った状態)にしておくとSQLが開かない状態でも微弱電波によりSメーターとしてLEDが点灯します。

RFメーター

マイクロホンのPTTスイッチを押し、本機が送信状態になると全てのLEDが点灯します。

なお1W送信のときは、2～4ケのLEDが点灯します。

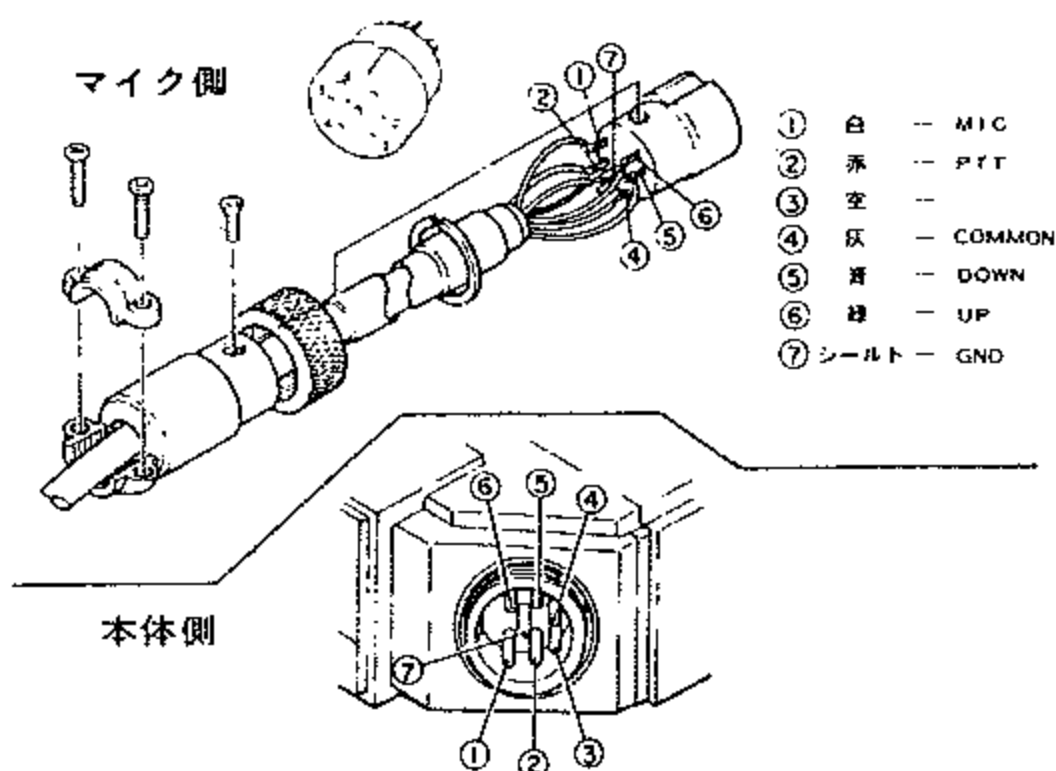
注：PTTスイッチを押してもLEDが点灯しない場合は、マイクロホン又は本機の故障と考えられますので使用をおやめください。

⑧ MIC(マイクロホン接続端子)

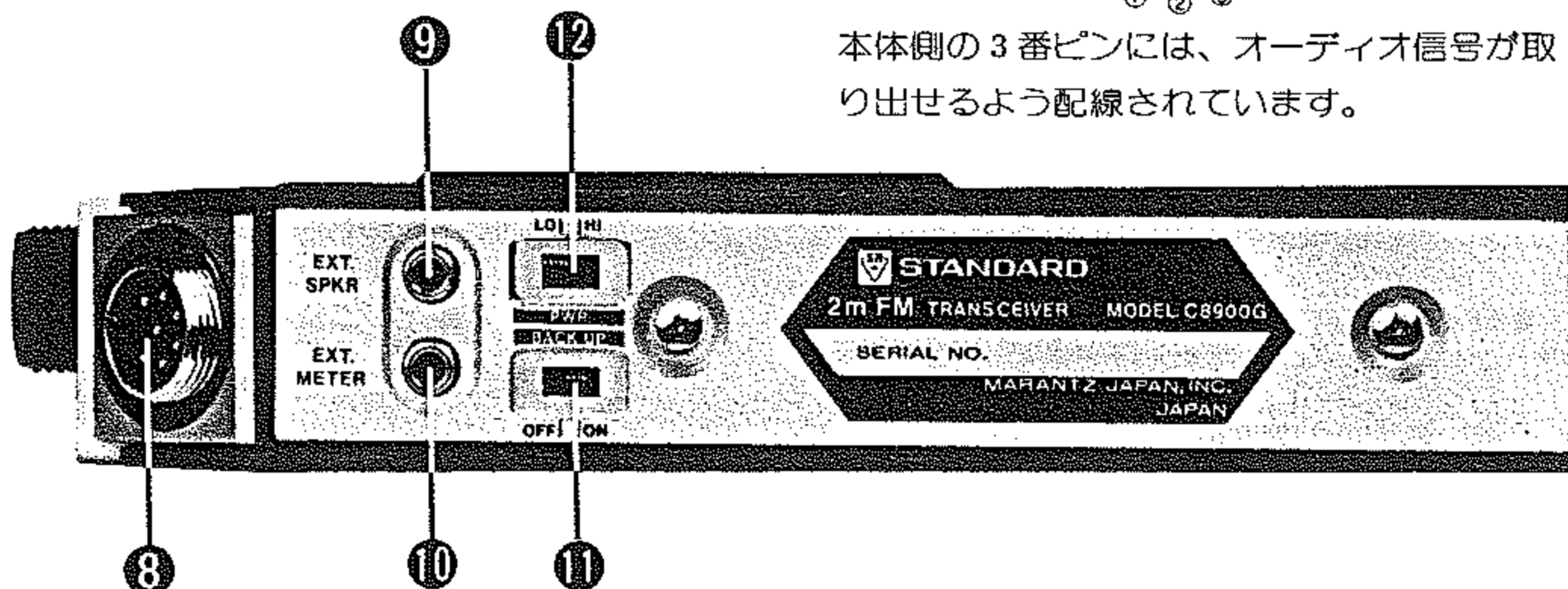
付属のUP、DOWNスイッチ付ハンドマイクロホンCMP726を接続する端子です。

(別売のマイク/スピーカ MP736を使用しますと、外部ノイズの多い所での運用に大変有効です。)

注意：当社指定以外のマイクロホンをご使用になるときは、インピーダンス600Ωのものをご使用ください。



本体側の3番ピンには、オーディオ信号が取り出せるよう配線されています。

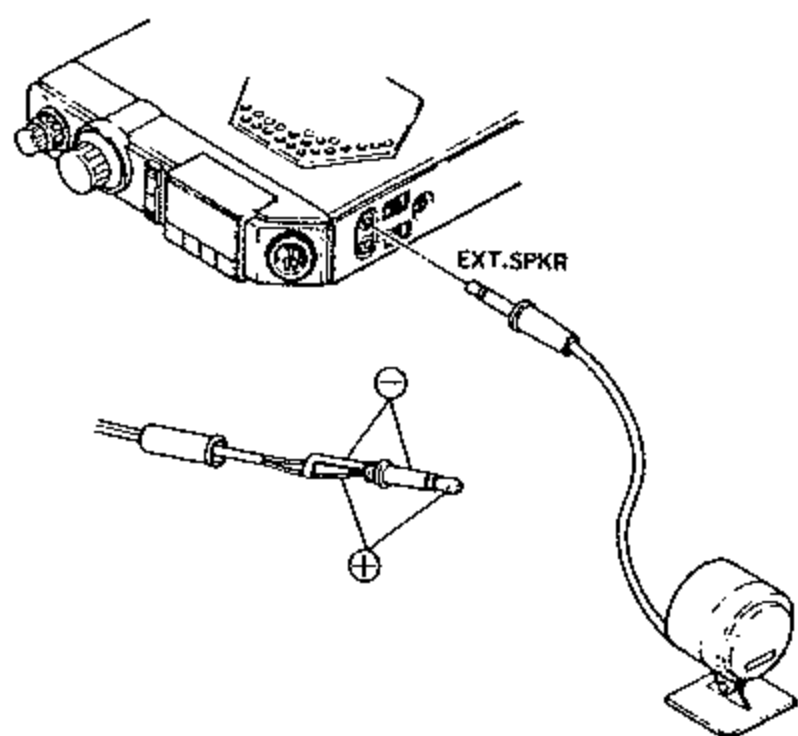


⑨ EXT SPKR

(外部スピーカ接続用端子)

外部スピーカを接続する端子です。別売の外部スピーカC207Mをご利用ください。この端子に外部スピーカを接続すると、本機に内蔵されているスピーカからの音はきこえなくなり、外部スピーカからのみ音が聞えます。

C207M以外の外部スピーカを使用される場合は、3.5φのプラグを使用して下図のように配線してください。

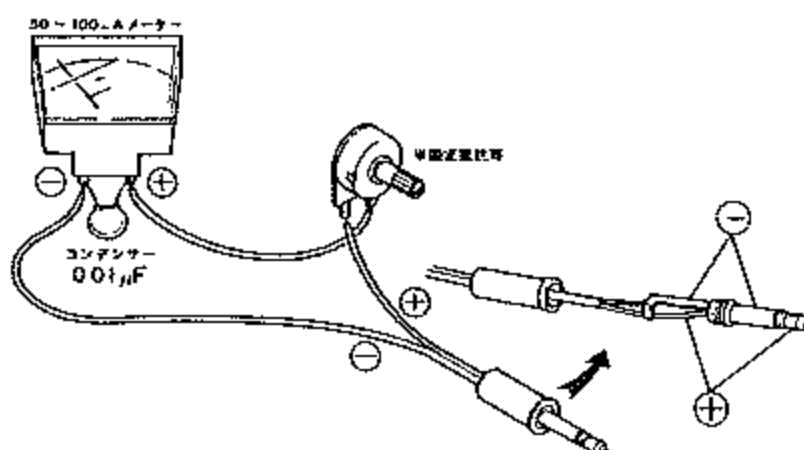


⑩ EXT METER

(外部メーター接続端子)

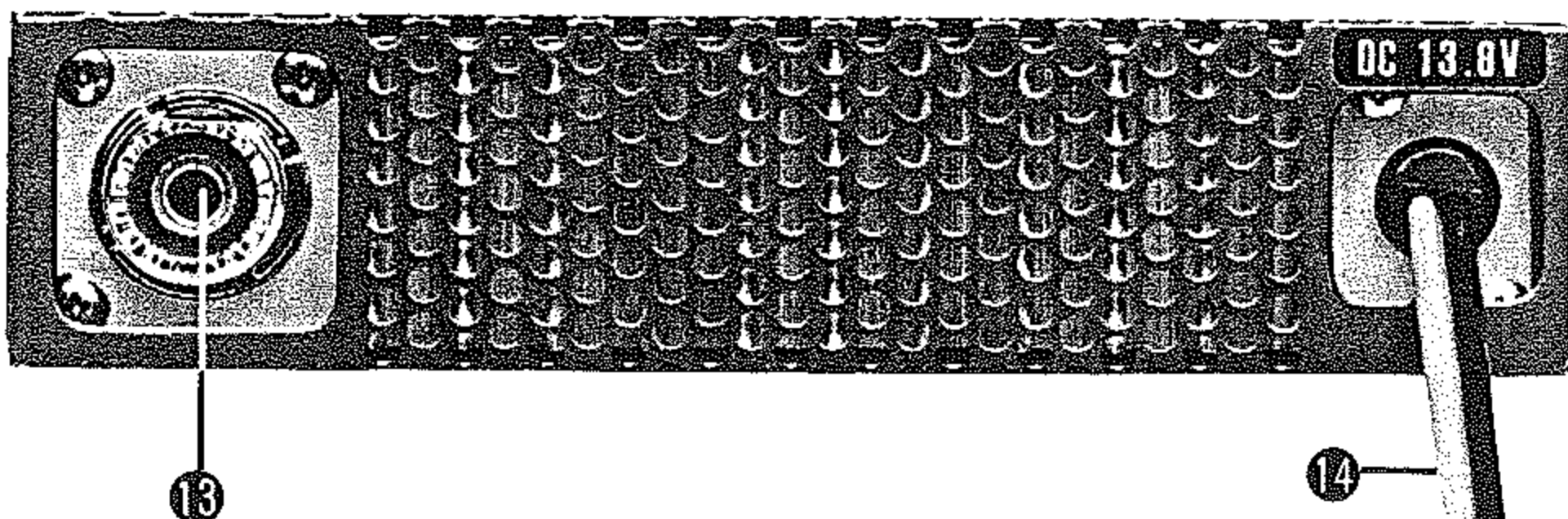
アナログ用外部メーター接続端子です。この端子に約50~100μAの直流電流計を接続してSメーターとしてご使用ください。またメーターの振れを少なくしたい場合はメーター出力の+側に47K~100KΩ程度の半固定抵抗器を直列に入れ調整されることをおすすめします。

回路例



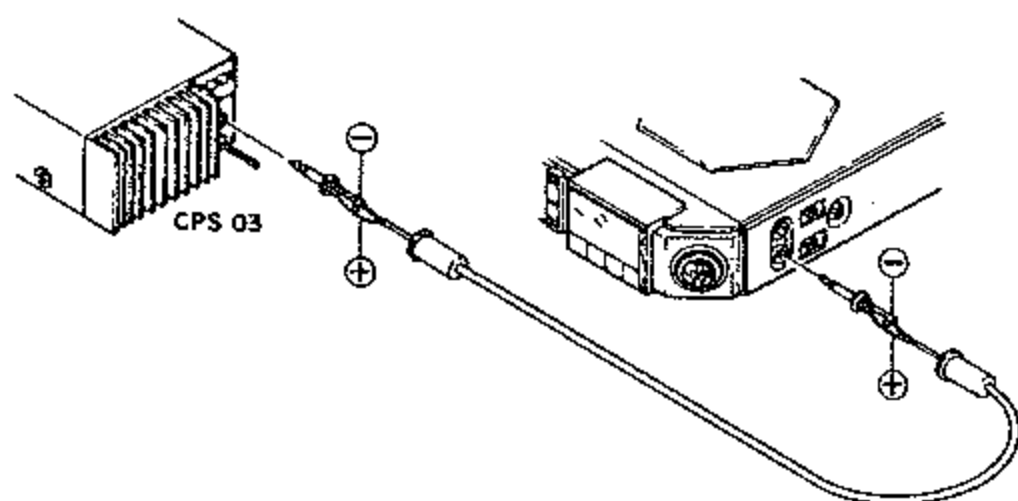
●半固定抵抗器を回して3.5φプラグ側のメーターの振れを調整してください。

注上記の回路例で直列抵抗が小さい場合は本体側のメーターの振れに影響をあたえることがあります。



別売の定電圧電源CPS03には、外部メーター入力端子がありますのでCPS03と合せてご利用ください。

本機とCPS03とは下図のようなコードで接続します。



市販されている3.5φプラグ2ヶとシールド線又は、普通のコード(細いものでよい)を準備してください。

⑪BACK UP(バックアップスイッチ)

電源スイッチのON・OFFに関係なく、常にメモリー回路に電圧を加えておき、メモリーされた周波数を保持するためのスイッチです。OFFの位置では、メモリー周波数は保持されません。

注意：本機を車載で使用されるときは、次の点を注意してください。

- 自動車を長時間使用されないときは必ずこのスイッチをOFFにしておいてください。
- 本機への電源配線は、なるべくバッテリーより直接行ってください。車種

によって異なりますが、スクーター始動時OFFになるラインがありますので、このようなラインに配線しますとバックアップスイッチが、ONになっていてもバックアップされないことがあります。

⑫HI-LOWパワー切替スイッチ

送信電力を1Wと10Wに切り替えるスイッチです。近距離通信に使用します。

バンド内の有効利用からも近距離通信のときはLOWパワーで運用してください。

⑬ANT(アンテナ端子)

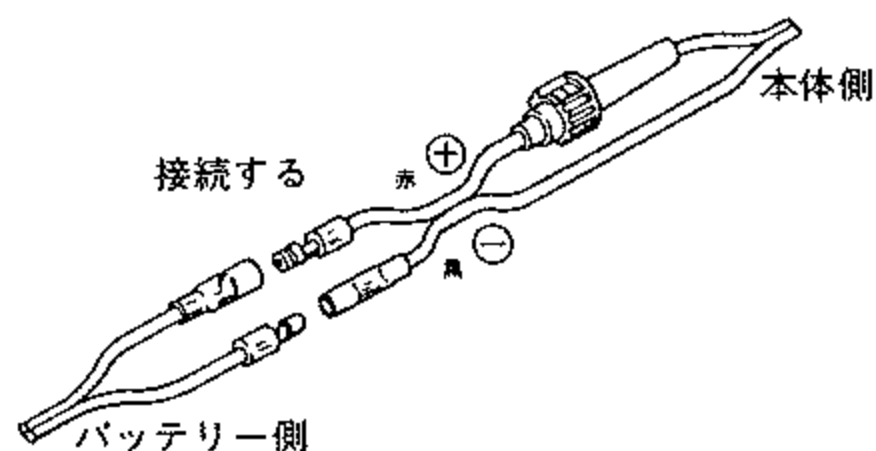
50Ωインピーダンスのアンテナを接続するM型コネクター端子です。

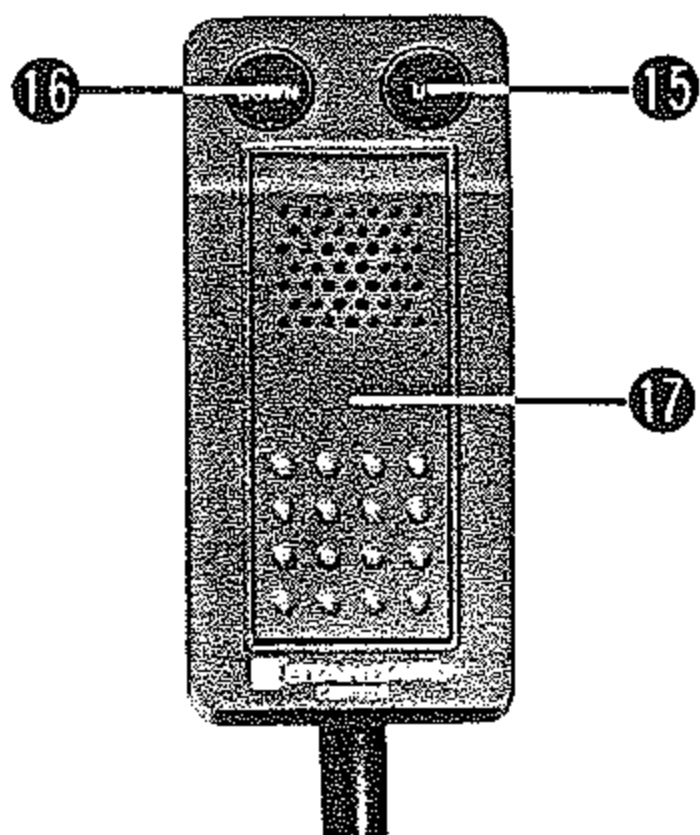
コネクターはしっかり締めつけてください。

⑭電源コード

直流13.8Vを加えるコードです。

付属の接続ケーブルを使用して本体とバッテリー等とを接続してください。





⑮UPスイッチ

周波数を連続的にUPできるボタンです。
0.5秒以上押し続けると連続してUPします。

⑯DOWNスイッチ

周波数を連続的にDOWNできるボタンです。
0.5秒以上押し続けると連続してDOWNします。

⑰PTT

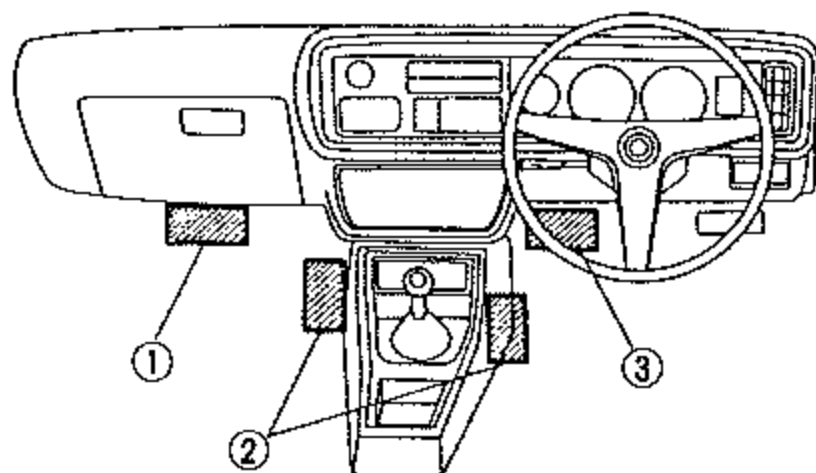
送信用のプレストークスイッチです。押すことにより送信状態になります。

取付け方法

モバイル使用の場合

本機の取付場所は、ダッシュボードの下、コンソールボックスの横および計器類の下等があります。暖風およびクーラーの吹き出し口の近くには取付けないでください。又、運転にさしつかえないように充分考慮して取付けてください。

図1 モービル車内取付け位置



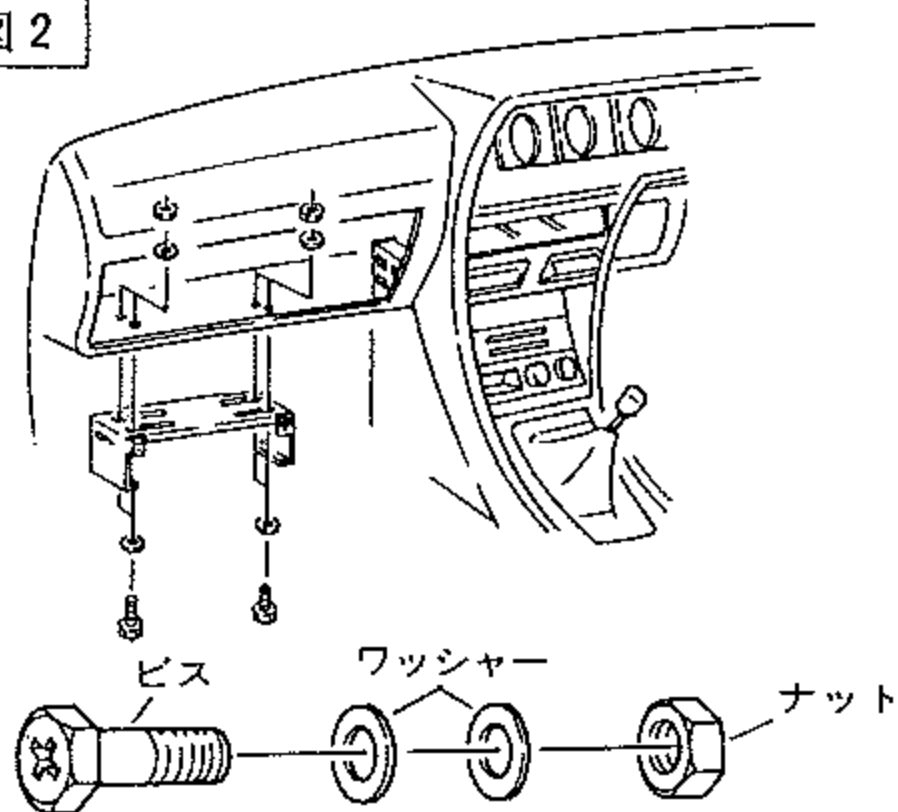
ブラケットの取付け方法

ブラケットを取付ける場合、ブラケットがしっかり固定される場所を選んでください。ブラケットは、必ず4本のビスでしっかり固定してください。

① 5mmのビスを使用する場合は5.2mm～5.5mm、また5mmのタッピングビスを使用する場合は4.0～4.3mmの穴をドリルであけてください。

② 5mmのビスを使用する場合は、図2のようにワッシャーにビスを通し、ブラケット側(車内)から車体内装にあけた穴に通して、内装裏側よりワッシャー、次にナットを通して固定します。(ボルト4本を固定します。)
5mmのタッピングビスを使用する場合は穴にタッピングビスを直接ネジ込んでください。ネジ山が自動的に切り込まれて固定さ

図2



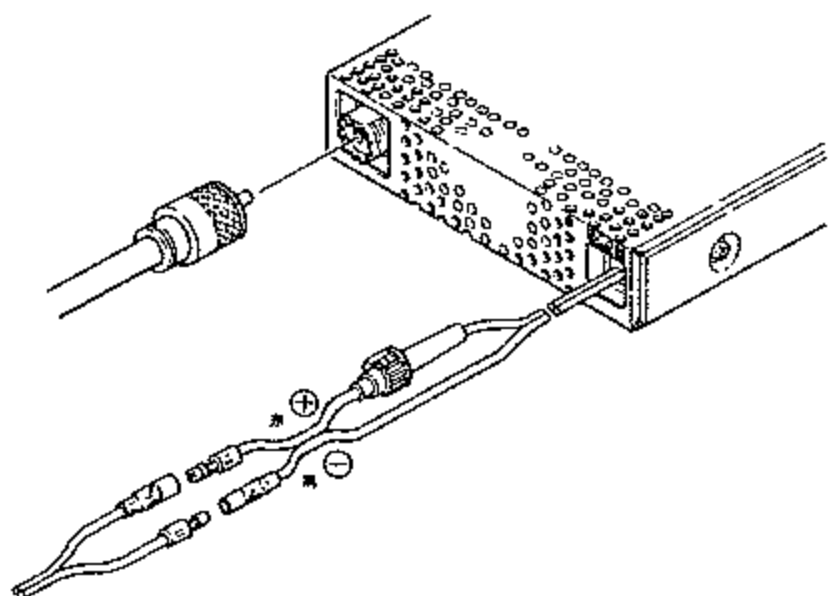
れます。

ビスを締めつけるときは、スパナか④ドライバーをご使用ください。

●ブラケット取り付け用穴加工型紙は22ページに記載されていますのでご利用ください。

- ③本機の後面パネルに、アンテナケーブルおよび電源コードを接続します。(図3)

図3 後面パネル接続図



注：側面のBACK UPスイッチは、前もってセットしておいてください。

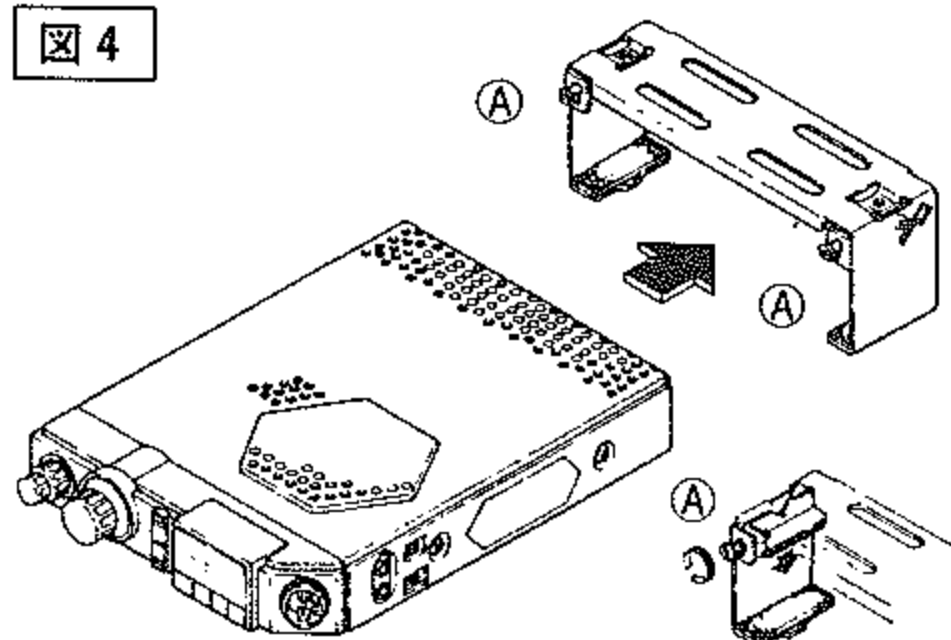
- ④モバイル運用時、ダッシュボードにこのブラケットを取付け、本機を固定します。本機を固定するには、図4の④部のビスを緩めて、本機が入るようにします。

本機をブラケットに入れ④部のビスをドライバーを用いて締めつけてください。

注：ブラケットに本機を入れる前にDCコード、同軸ケーブルは接続しておいてください。

- ⑤モバイルブラケットを2ヶ重ねて使用できるよう設計されています。詳細は18ページを参照してください。

図4



アンテナの取付け方法

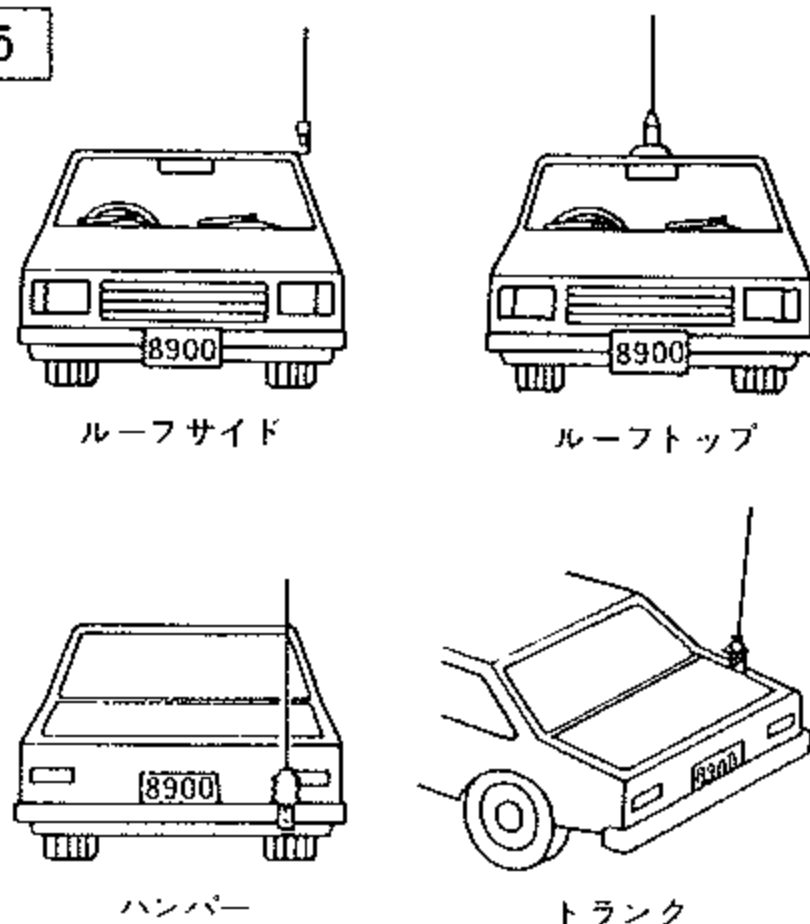
アンテナを自動車に取付けるときはアンテナベースを使用しますので、車種および使用されるアンテナに合ったアンテナベースをお買い求めください。アンテナベースを取付ける場所としては、図5のような場所が一般的です。

注：アンテナベースを取付けるときは、アースが完全にとれるようにしてください。

本機の性能を十分に発揮していただくためにも特性の優れたアンテナをご使用ください。アンテナのSWRは1.5以下になるようにアンテナを調整し、使用してください。SWRが悪いと正規の送信電力が出なくなります。

同軸ケーブルの引込時には、雨水等が車内に入らないように充分配慮してください。

図5



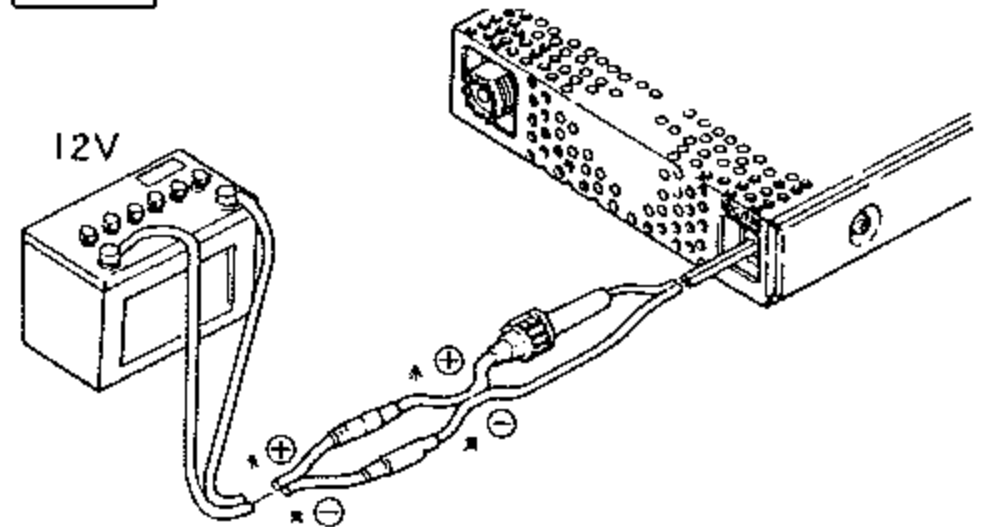
電源の配線

本機は13.8V入力になっておりますので、大型トラック等の24V仕様車にはご使用できませんのでご注意ください。

- 本機への電源供給は必ず車のバッテリーより行ってください。(図6)
- 附属の電源コード(赤・黒コード平行線)は車のバッテリーの⊕側に赤を、⊖側に黒をゆるまないよう、しっかり取り付け、接触不良およびバッテリー液漏れによる腐食等に十分注意してください。
- 電源コードを車に引き込むとき、雨水が車内に入らないようご注意ください。

注：電源コードをエンジンキーと連動する電源、たとえばシガーライター等に接続しますと、BACK UPスイッチをONにしておいても、メモリー周波数は保持できませんのでご注意ください。なお本機はマイナス接地方式です。

図6 バッテリーからの接続方法



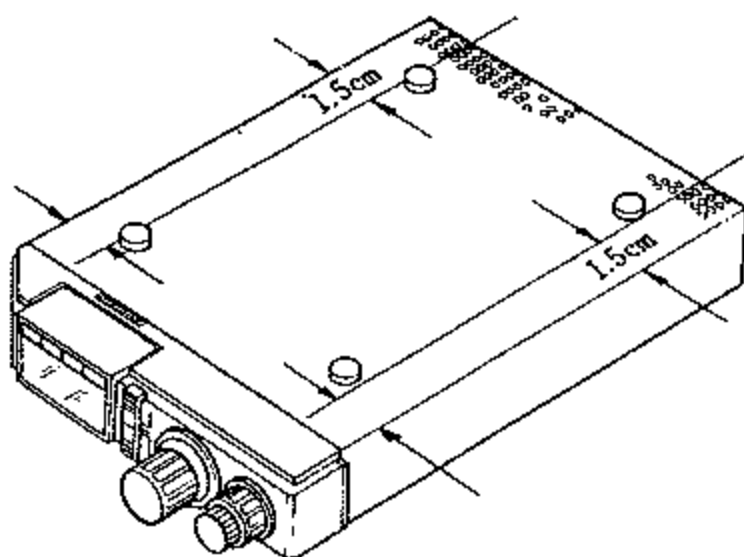
固定局の場合

- 本機は固定局用としてもご使用になれますので、安定化電源の上もしくは机の上に設置する際には、附属の脚4ヶを本機の底面に貼りつけてご使用ください。

取付方法は下図の通りです。

ゴム脚4ヶには各々両面接着紙が貼られていますので、脚取付箇所の油や汚れを落してから、ゴム脚の保護紙をはがし図の様な位置に強く押しつけます。

注：脚は図のように1.5cmより外側に貼付ますと、本機をモービル・ブラケットに入れることができなくなりますので、1.5cmの所又はそれより内側に貼りつけてください。



- 定電圧電源は別売のCPS03又は、D.C出力13.8V、出力電流4A程度のものをご使用ください。

CPS03には外部“S”メーター端子がありますので、本体のEXT.METER端子とCPS03のMETER INPUT端子に3.5φプラグ付のコードを接続すると、CPS03のメーターを“S”メーターとして使用することができます。

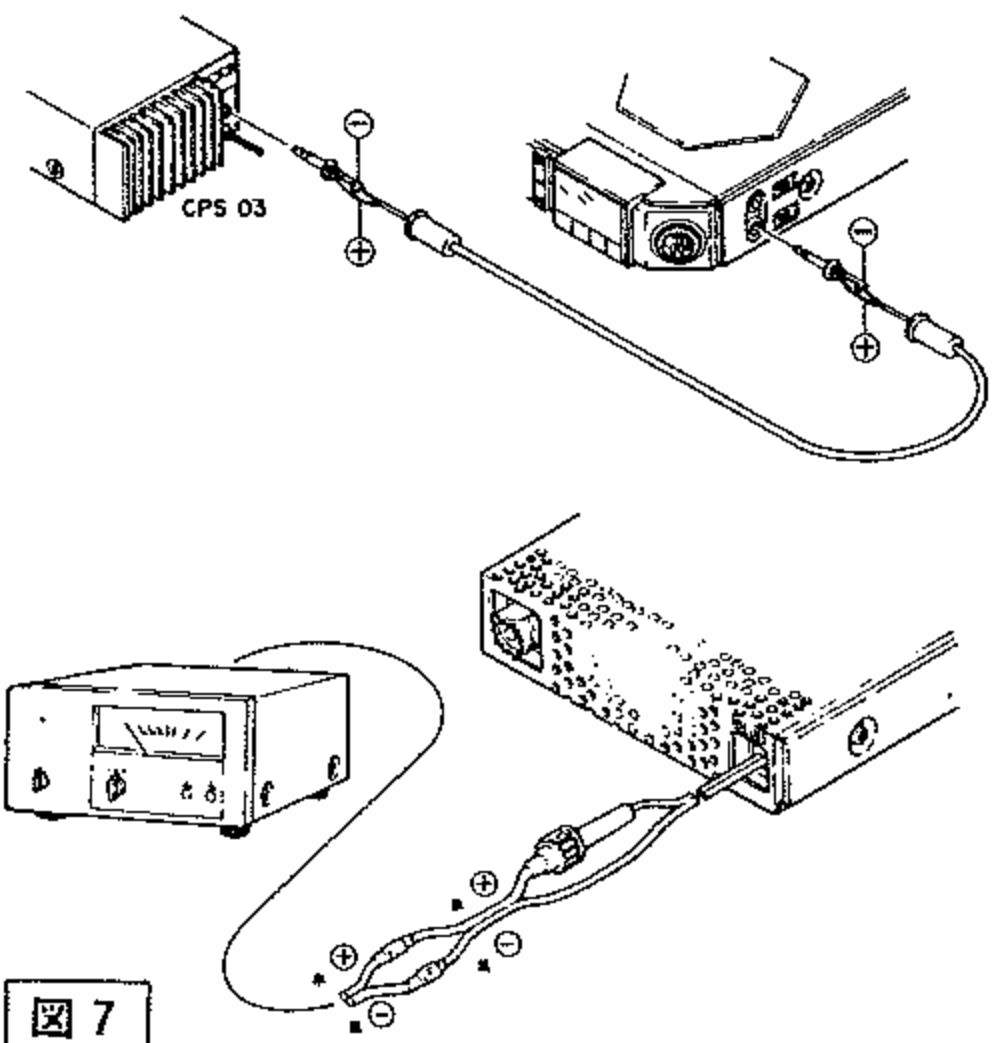


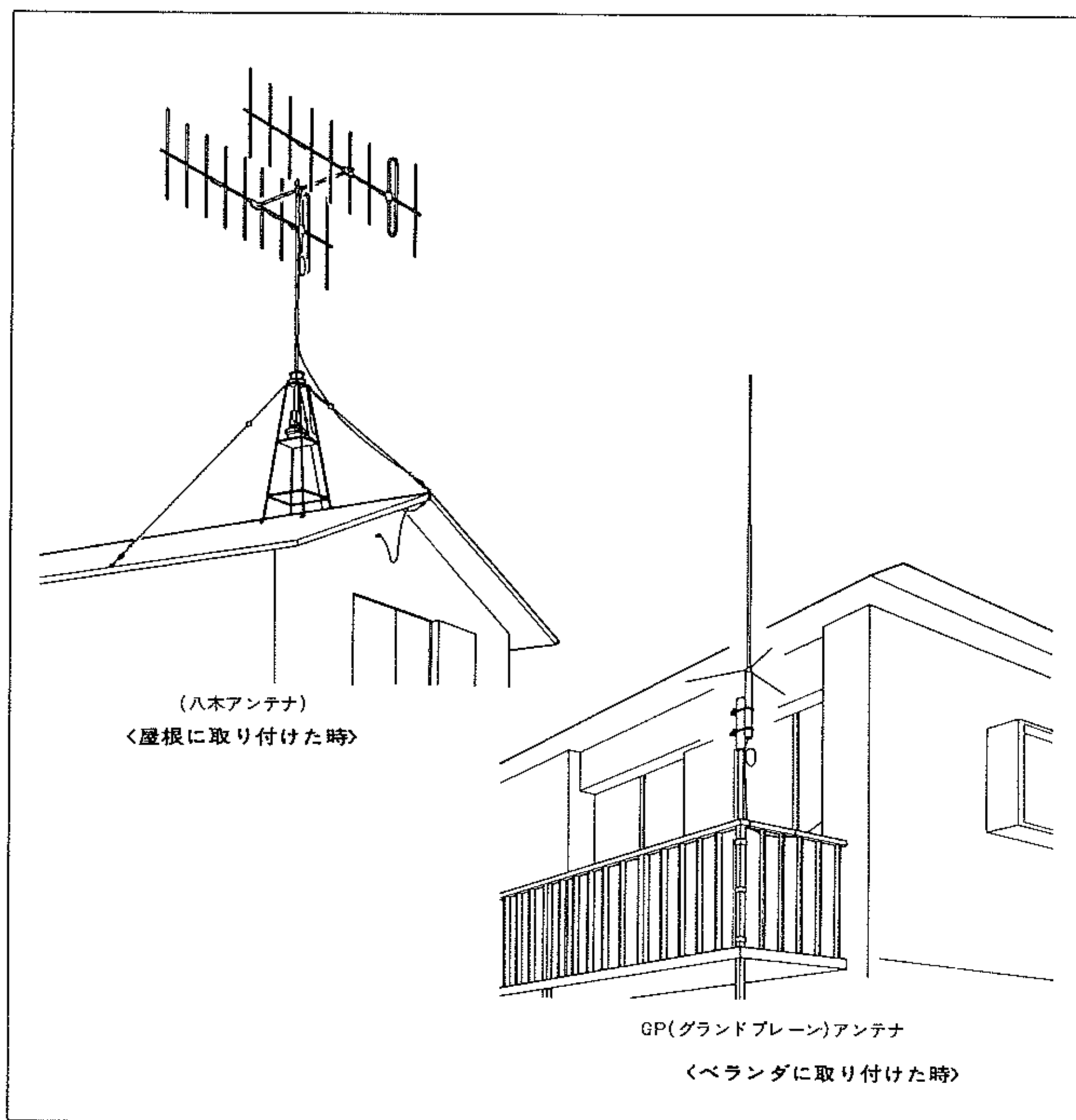
図7

アンテナについて

アンテナの種類および設置方法によって、送信、受信の具合が大きく左右されますので、性能のしっかりしたアンテナを選び取付け後の調整も念入りにおこなってください。

ローカルQSOにはグランドプレーンアンテナ、(無指向性)が適していますし、遠距離とのQSOには八木アンテナ(指向性がある)が適していますので目的および用途に合ったアンテナをお選びください。

アンテナから本体までの同軸ケーブルが長くなり過ぎますと、同軸ケーブルでの損失が大きくなりますので、同軸ケーブルはなるべく最短距離を通すようにしてください、長さが10mまでですと5D2V、30mまででは8D2V以上の太い同軸ケーブルをご使用ください。



操作方法

運用にあたって

(1)144MHz帯使用区分

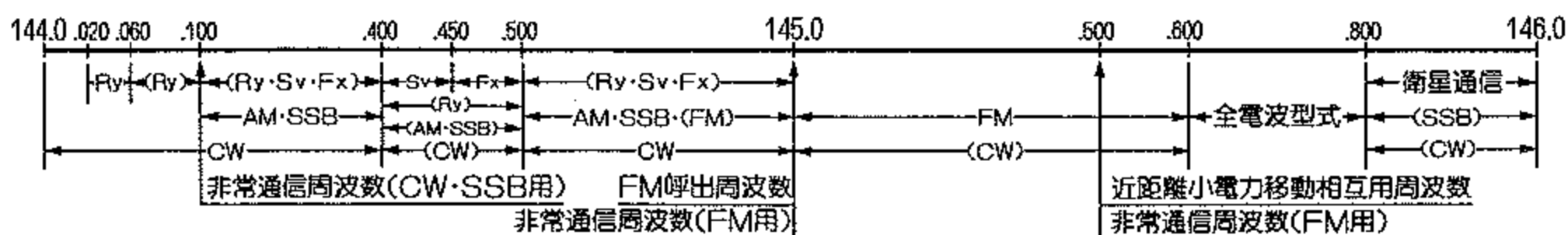
144MHz 帯においては、下表に示されているバンド使用区分がJARL（日本アマチュア無線連盟）によって制定されていますので、この使用区分にそった運用をお願いいたします。

運用の際には使用電波のルールや慣習に十分注意し無用のトラブルが生じないようにご配慮ください。

●電波型式の表示方法(定義)

- ①A1電波は、「CW」とする。
- ②A2、A3、A9(抑圧搬送波両側波帯に限る)電波は、「AM」とする。
- ③A3A、A3J、A3H電波は、「SSB」とする。
- ④A5、A5C、A9(テレビ電波に限る)及びA9C電波は、「TV」とする。
- ⑤F1電波は、「RTTY(Ryと略記する)」とする。
- ⑥F2電波のうち、モールス符号を用いる電信によるものは「FM」、テレタイプによるものは「RTTY(Ryと略記する)」とし、後者については使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。
- ⑦F3電波は、「FM」とする。

(2)JARL制定144MHz帯使用区分



- (注1) 144.000MHz~144.020MHzの周波数帯は、月面反射通信、流星散乱通信、オーロラ反射通信などに使用する。
(注2) 144.100MHz~144.200MHzの周波数帯は、主として遠距離通信に使用する。
(注3) 144.500MHz~145.600MHzの周波数帯のFM電波の占有周波数帯幅は、16kHz以下とする。
(注4) FM系によるRTTY、SSTV及びFAXの運用は、144.500MHz~145.000MHz及び全電波型式の周波数帯を使用する。

- ⑧F4電波のうち、占有周波数帯幅が40kHz以下のものは「FAX(Fxと略記する)」とする。但し、FM系によるものについては使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。
- ⑨F5電波のうち、占有周波数帯幅が40kHz以下のものは「SSTV(Svと略記する)」とする。但し、FM系によるものについては使用区分表の脚注にその周波数帯を明示する。
- ⑩上記の電波にその他の電波を加えたものを、「全電波型式」とする。

●()内の電波型式

使用区分のうち、()内の電波型式については、これと併記された電波型式による通信に混信を与えないことが明らかな場合に限り使用できるものとする。

●表示周波数

- ①非常通信、ビーコン、FM呼出、及び近距離小電力移動相互用の各表示周波数は、搬送波周波数とする。
- ②①以外の表示周波数は、電波の使用区分の境界を表わしており、電波の占有周波数帯幅の上限または下限とする。

●FM呼出周波数における非常通信

連絡設定後は他の周波数に移り非常通信を行なうこととする。

運用方法

アンテナおよび電源コードの接続が終了したら、マイクコネクタに付属のマイクロホンを接続ししっかりと締めつけてください。

- OFF/VOLツマミを回して電源をONにします。周波数表示が5.000になります。
- OFF/VOLツマミをさらに時計方向に回すと、ノイズ音又は、音声が増えてきます。
- 次にSQLツマミを時計方向にゆっくり回してゆき、ザーというノイズ音が聞えなくなる所で止めます。
(時計方向に回しすぎないでください。又弱

い信号を受信するときは、SQLツマミを反時計方向に回しノイズ音が聞える状態でご使用ください。)

- これで準備完了です。メインダイヤル又はマイクロホンのUP、DOWNスイッチ等を使用して、任意の周波数に合わせて運用してください。
- 送信するときは、運用周波数で他局に妨害を与えないことを確認してください。
マイクロホンと口との間隔は3 cm ~ 5 cmぐらいが適当です。

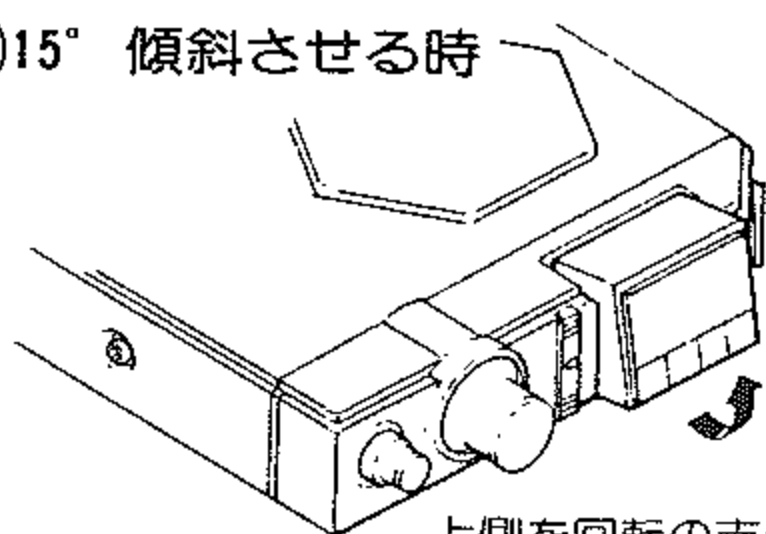
便利な使い方

周波数表示ブロックの回転機構について

周波数表示部分は上方向に15° 回転出来る構造となっております。この操作方法是下記の手順で行なってください。

注：とくに、もとに戻す時は、ロックされていますので、必ず、下側のローレット部を押しながら、もとに戻してください。

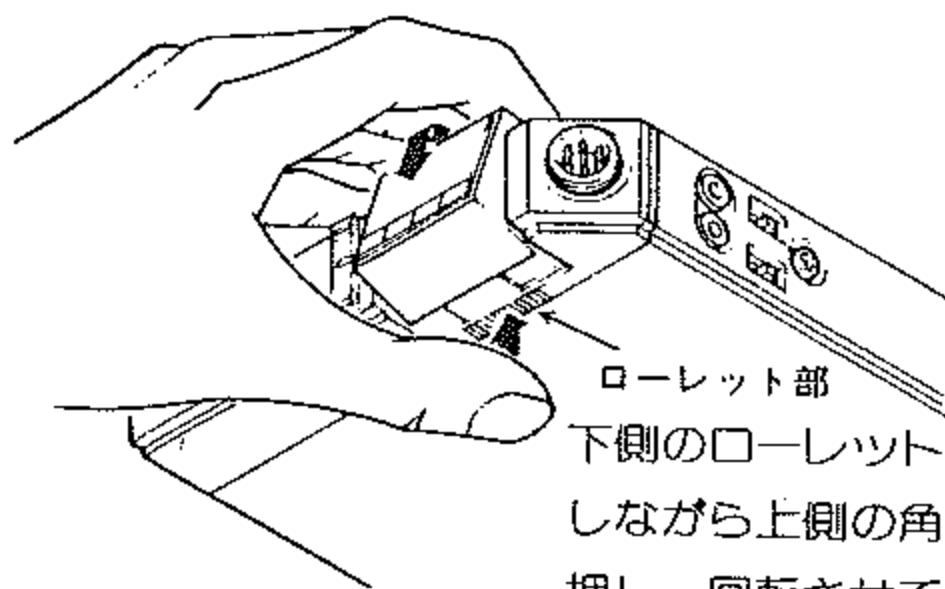
(1)15° 傾斜させる時



上側を回転の支点にして

(2)もとに戻す時

下側を前にひき出す。



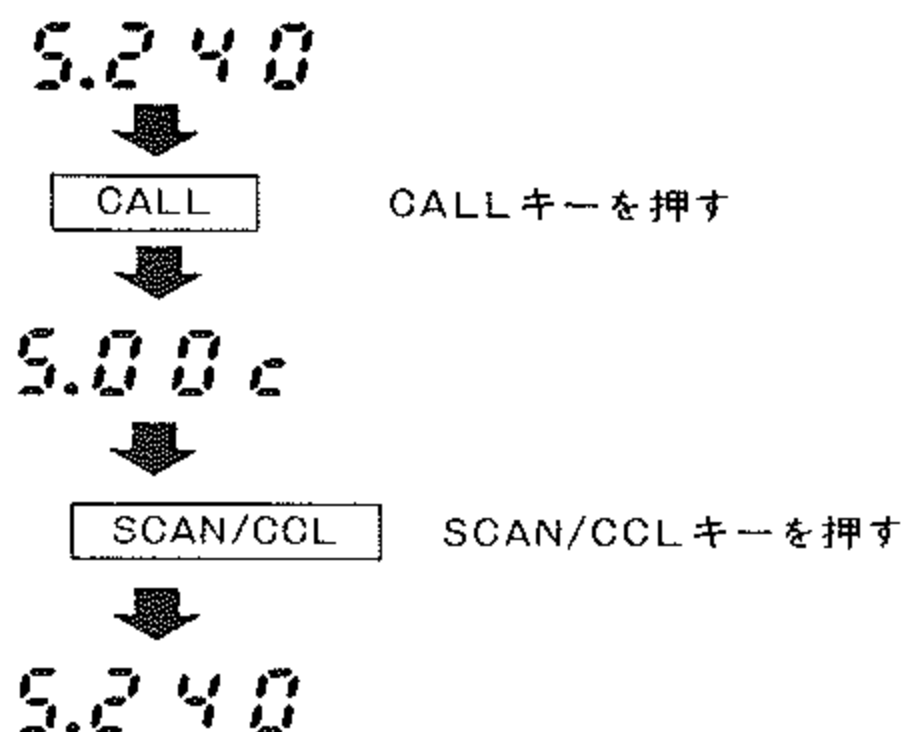
ローレット部

下側のローレット部を押しながら上側の角を下に押し、回転させてもとに戻す。

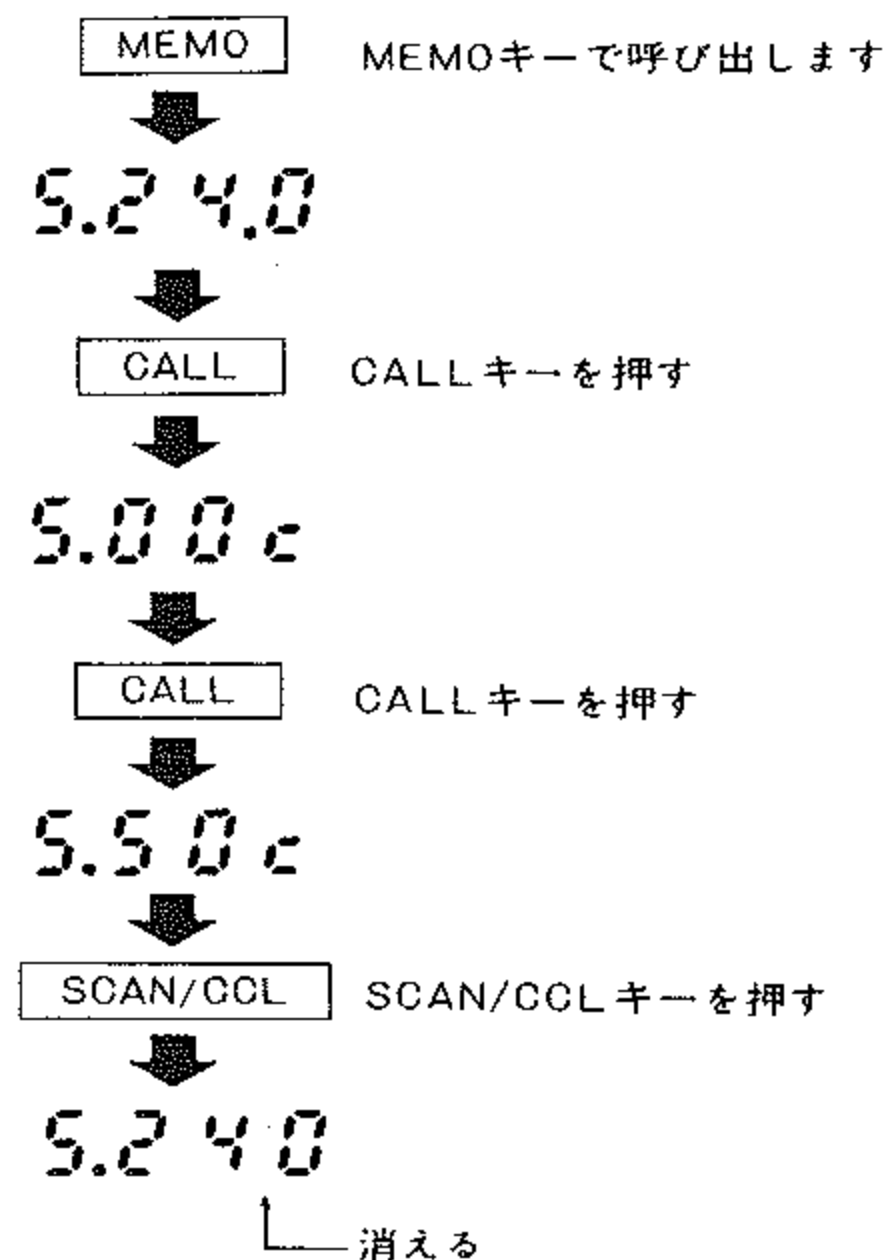
CALLキーの使い方

1. CALLキーとSCAN/CCLキーを使うことにより 145.000MHz と 145.500MHz の二波と他の任意の一波を自由に呼び出すことができます。

例、周波数が145.240MHzの場合



145.240MHzがメモリー周波数の場合

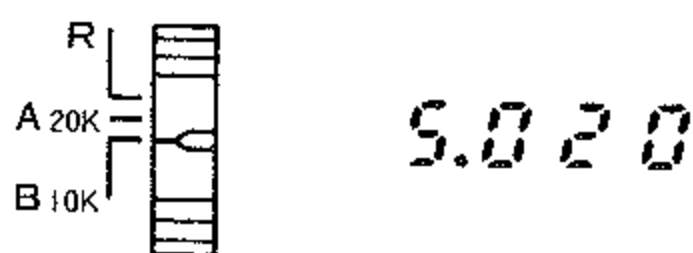


VFOの使い方

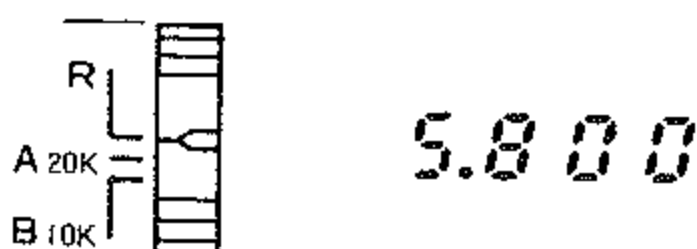
本機にはA、Bおよび受信専用のRと3つのVFOがそれぞれに独立していますのでいろいろな運用が楽しめます。

1. VFO切替スイッチBとRとを組合せて使用しますと、巾広い運用ができます。

1. B-VFOの位置で周波数を選びます。



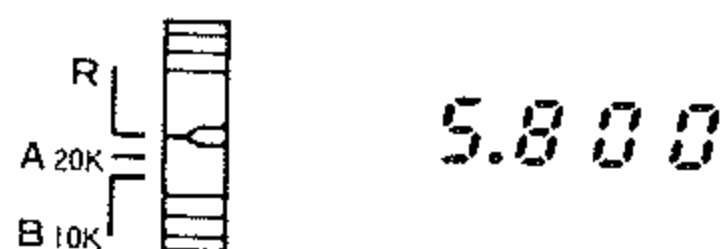
2. 次にVFO切替スイッチをRにし、周波数を選びます。



3. VFO切替スイッチをRのままで送信状態にしますと、B-VFOで選定した周波数になります。

5.020

受信状態にしますと、R-VFOで選定した周波数になります。

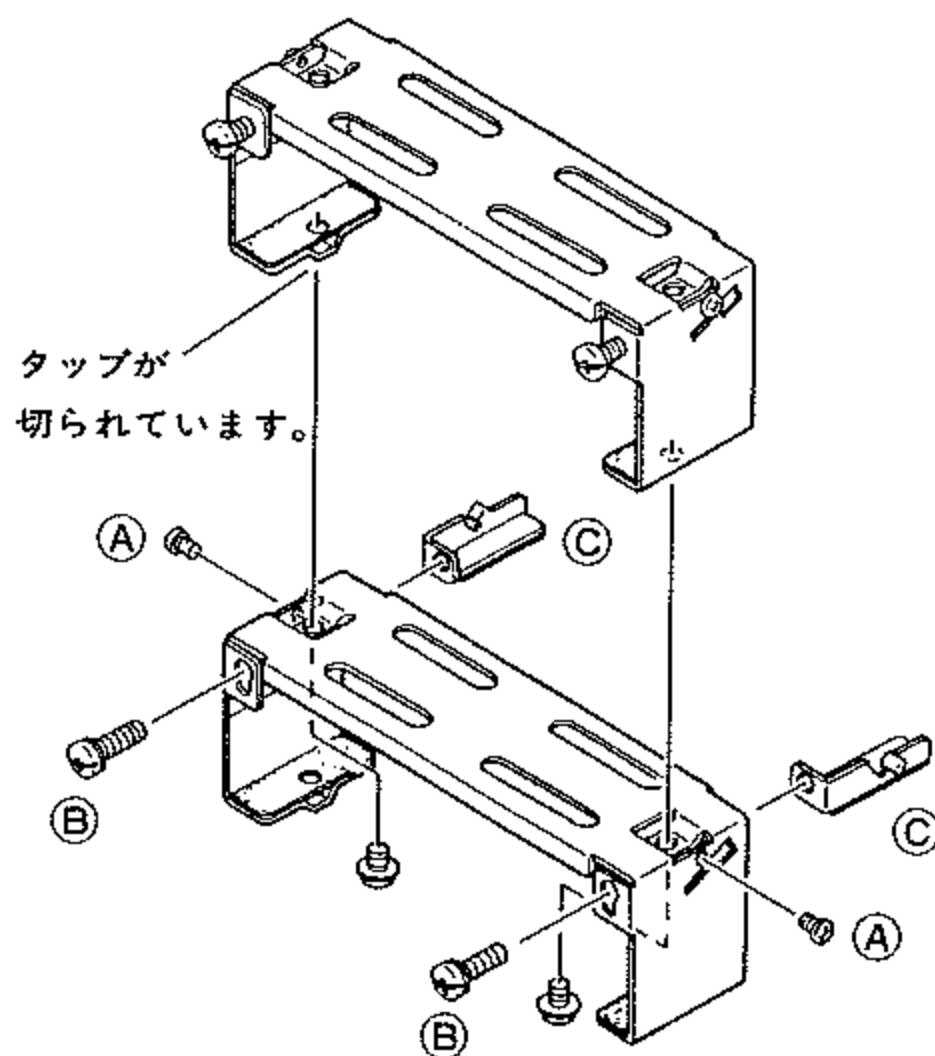


モバイルブラケットの使い方

本機のモバイルブラケットは2段重ねができるよう作られています。2段重ねをする下側のモバイルブラケットのみ下記の作業を行います。

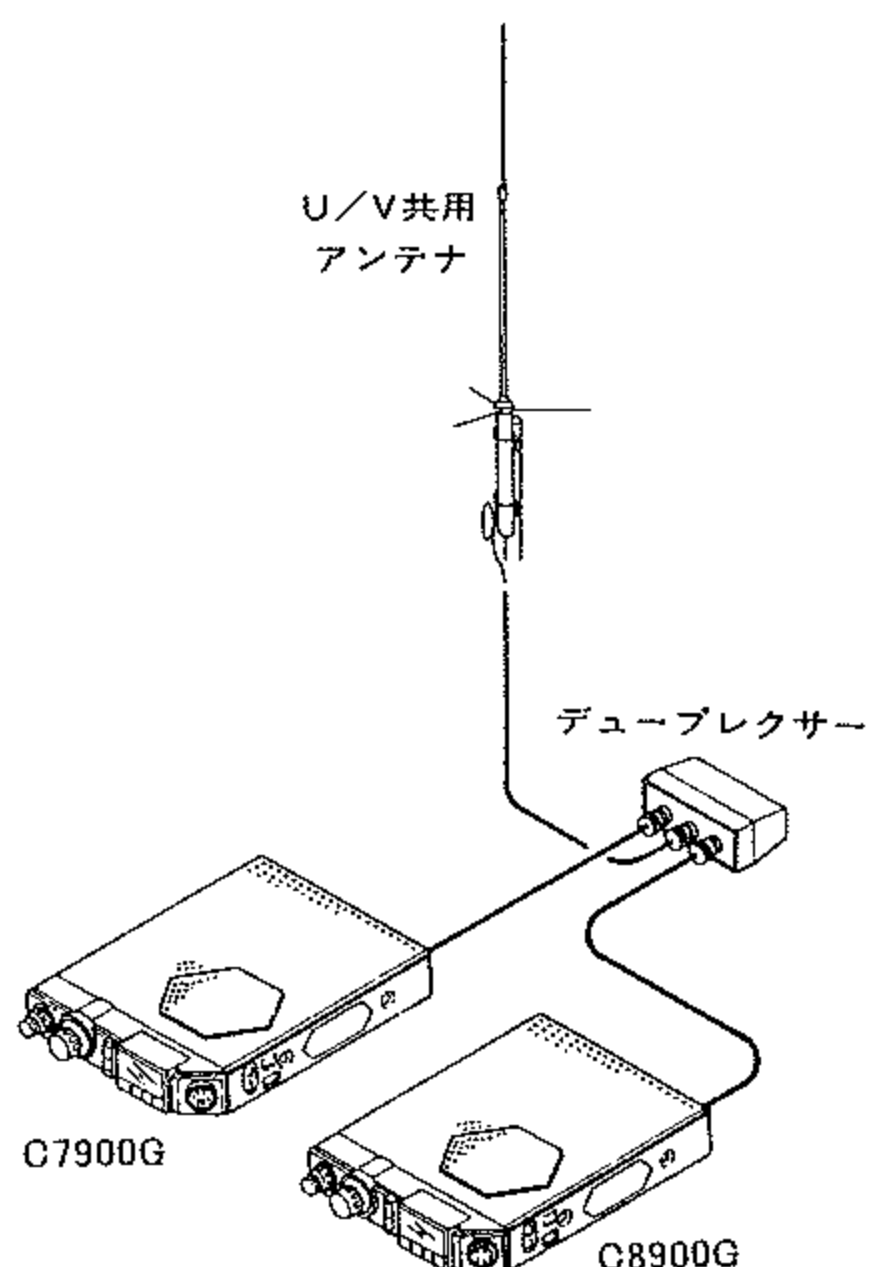
モバイルブラケットの重ね方

1. モバイル・ブラケット側面のビス(A)2本を外します。
2. モバイル・ブラケット前面の本機固定用ビス(B)2本をユルメ外します。
3. 以上4本のビスを外しますと、本機押え金具(C)2ヶを取り外すことができます。
4. 本機押え金具を外したら、付属のワッシャー付黒ビスを図の様に通しドライバーで2つのモバイル・ブラケットをしっかりと固定します。
5. 先ほど外したビス、本体押え金具を元通りに取りつけて、作業終了です。



同軸ケーブルの接続方法

UHF、VHFの共用アンテナで、C7900 G、C8900 Gを使って運用される時は図の横に、市販のデュプレクサーを介してC7900 G、C8900 Gに接続してください。



定 格

❶ 一般仕様

送受信周波数	144～146MHz
電波型式	F ₃
使用電圧	DC 13.8V
消費電流	送信時2.8A 待受受信時0.4A
マイク入力インピーダンス	600Ω
低周波出力インピーダンス	8Ω
空中線インピーダンス	50Ω
接地方式	マイナス接地
寸法(幅×高さ×奥行)	138×31×178mm
重 量	1.1kg

2 受信

受信方式…ダブルスーパーヘテロダイン
中間周波数…………… 1st IF 10.7MHz
 2nd IF 455kHz
受信感度…………… 12dB SINAD -10dB
 ※(-16dBμ)

通過帯域巾…………… $\pm 7.5\text{kHz}$ (-6 dB)
選択度……………60dB以上
スケルチ感度……………-16dB
 $\ast (-22\text{dB}\mu)$
低周波出力……………2 W(10%歪率、8 Ω 負荷)
 $\ast$ はJAIA測定法による表記

③送信

送信出力	Hi-10W
	Low-1W
スプリアス比	60dB
最大周波数偏移	± 5 kHz
変調方式	リアクタンス変調

本機の規格および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

申請書の書き方

本機によるアマチュア無線局の申請には、市販の申請書に下記事項を記入し、間違いのないことを確認して申請してください。

〔工事設計書〕

区 分		第 1 送 信 機	第 2 送 信 機
発射可能な電波の型式 周波数の範囲		電波の型式 F ₃	電波の型式
		144MHz帯	MHz 帯
変調の方式		リアクタンス変調	
終 段 管	名称 個数	SAV 5 × 1	X
	電圧 入力	13.2 V 20 W	V W
送信空中線の型式			
その他工事設計		電波法第 3 章に規定する条件に合致している	

- C8900G は JARL 登録機種ですので、送信機系統図の記入を省略することができます。
- 送信機系統図の欄には C8900G とご記入ください。

- 登録番号 S-35

第 1 送信系統図

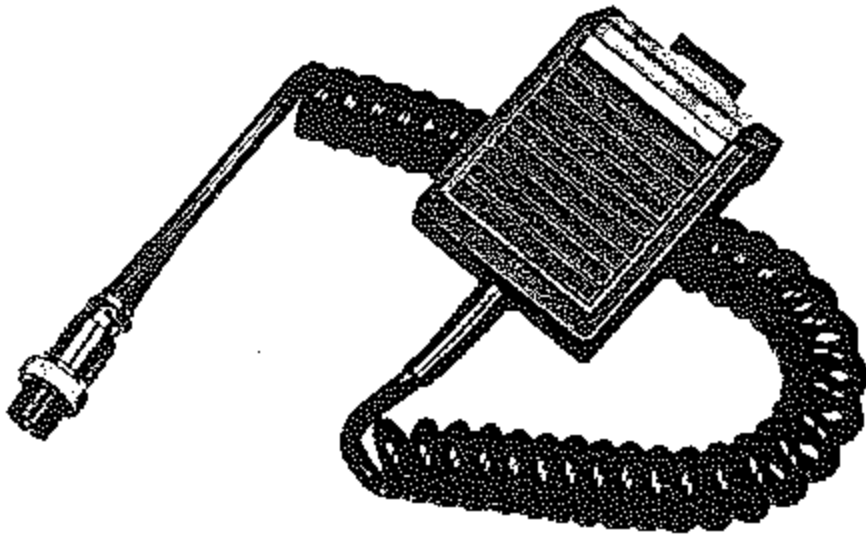
- 送信型名 C8900G (日本マランツ)
- S-35

保証・アフターサービスについて

- この商品には保証書を別途添付してあります。保証書は「販売店印・保証期間」をご確認のうえ、販売店からお受取りいただき、よくお読みの上大切に保存してください。
- 保証期間はご購入の日より 1 年間です。正常なご使用状態で、この期間内に万一故障の際は、ご購入販売店または弊社営業所で保証書記載事項に基づき「無償修理」いたします。
- 保証期間経過後の修理
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 補修用部品の詳細・ご転居等アフターサービスについての不明な点は、お買上げ販売店または別紙の弊社営業所に遠慮なくご相談ください。

主なアクセサリ

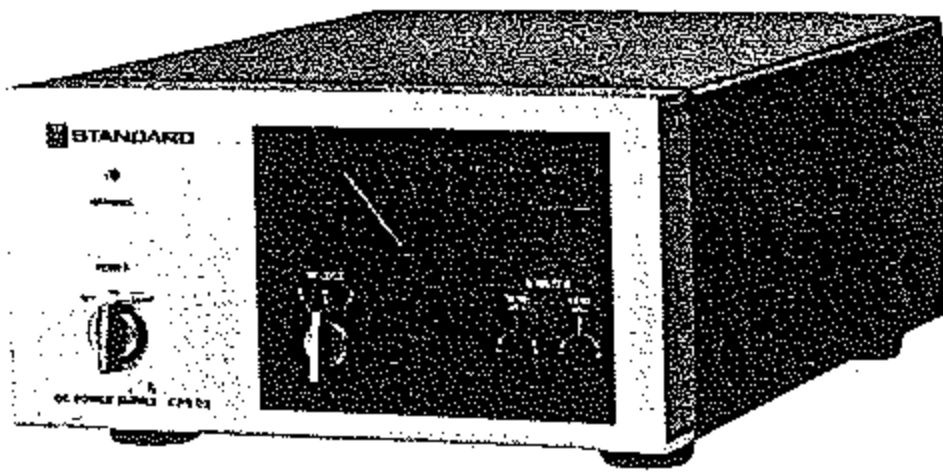
本機には次のようなアクセサリが用意されます。



・マイク／スピーカ MP736



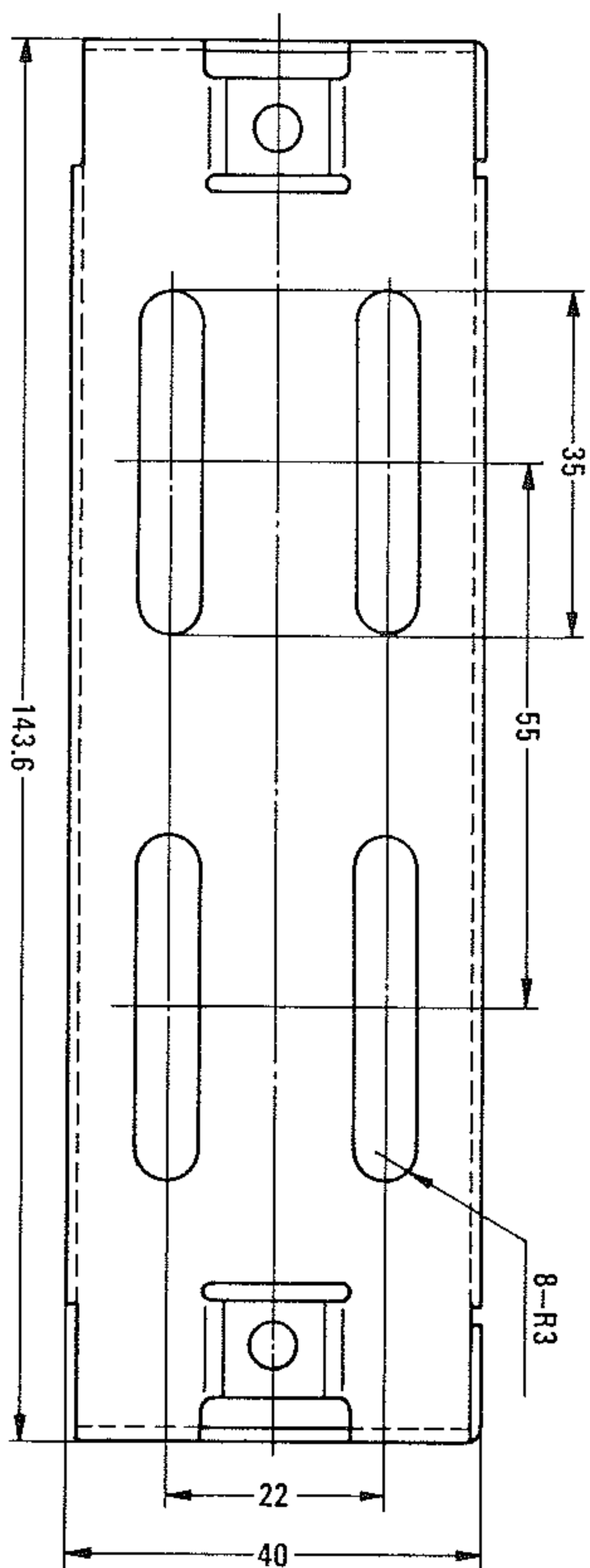
・外部スピーカ C207M

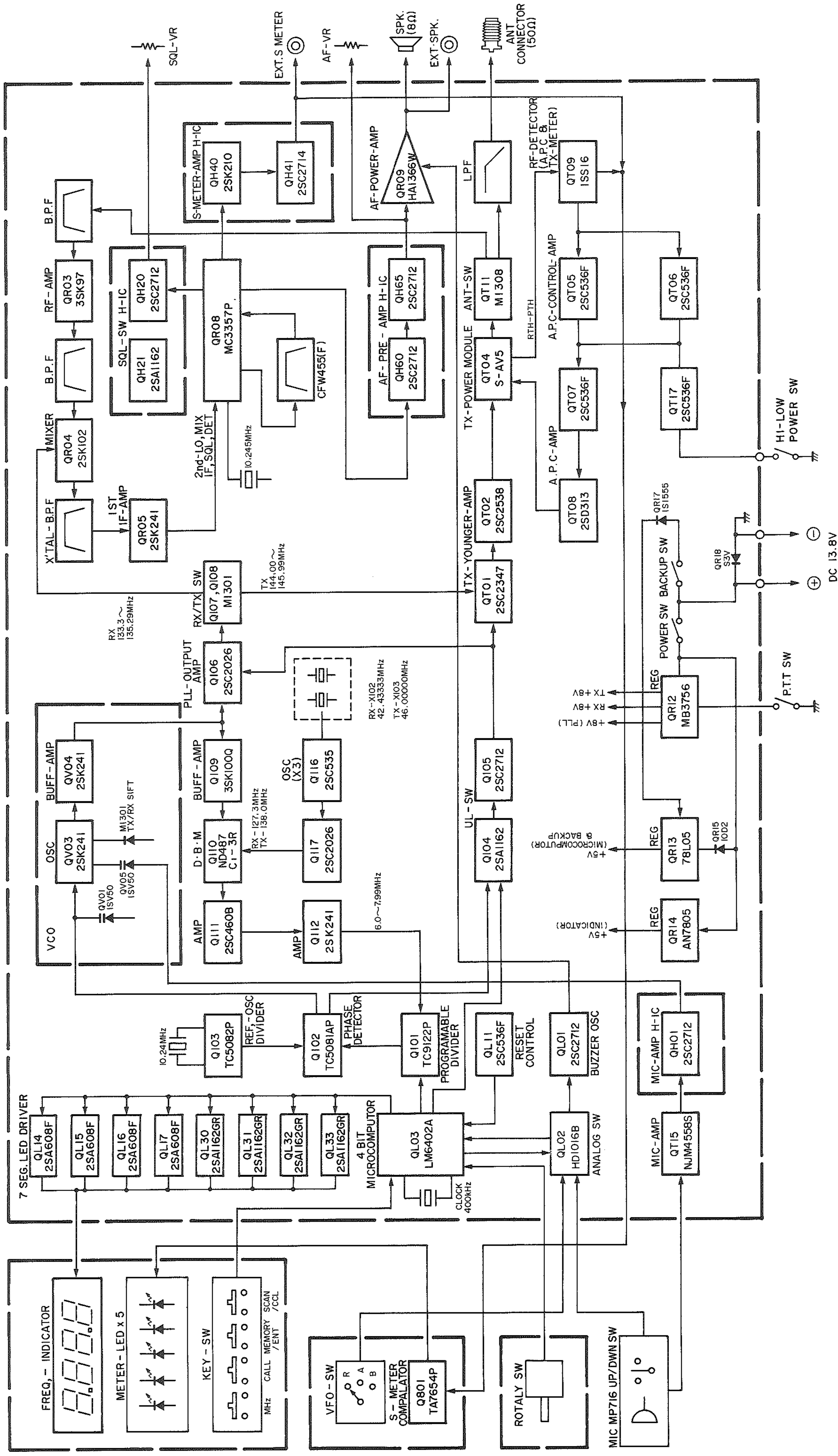


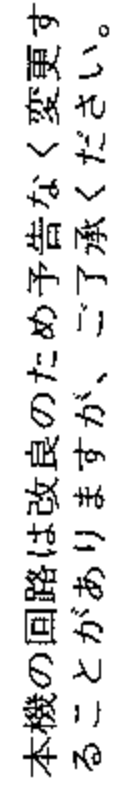
・定電圧安定化電源 CPS03

型紙としてお使いください。

(単 位 m m)



[illegible]



日本マランツ株式会社

本 社 〒228 神奈川県相模原市相模大野7丁目35番1号
営業本部 〒150 東京都渋谷区恵比寿南1丁目11番9号

ご注意：お問合せは日本マランツ(株)各営業所で承っております
ので全国営業所一覧をご覧ください。